

平成30年3月13日(3)

開議 10時00分

○議長 磯永優二君

皆さん、おはようございます。

本日は、豊前市母子寡婦福祉会の皆様方が傍聴にお見えになっておられます。本当に關心を持っていただきまして、ありがとうございます。期待に応えられるよう、議員もしっかりと質問し、執行部も答弁すると思いますので、楽しんで傍聴していただきたいと思います。

それでは、ただいまの出席議員は12名であります。

これより、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問、2日目を行います。

順次、質問を許可します。

まず、平成豊明会の一般質問を行います。

最初に、内丸伸一議員。

○2番 内丸伸一君

皆さん、おはようございます。平成豊明会一番手、内丸伸一が市政実行、真心込めて質問いたしますので、真摯な御回答をよろしくお願いいたします。

議員に当選いたしましたして、約2年、一般質問で毎回質問しておりました、環境関連施設について質問いたします。きのうの郡司掛議員とかぶる質問もあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

まずは長寿命化計画が頓挫し、3月いっぱいのみやこ町が脱退、豊前市単独での運営を余儀なくされています、し尿処理場についてお聞きします。

し尿処理場の現在の搬入、及び処理量、施設の故障やメンテナンスなど、現在の状況はどうなっていますか。また、年間の運営費はどうなっていますでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

おはようございます。それでは、し尿処理場の搬入量ですけれども、決算が、平成28年度が出ておりますので、それをもとに説明をさせていただきたいと思っております。

し尿の搬入量ですけれども、平成28年度の実績では、豊前市が1万7423キロリットル、これは年間の量になります。1日に直しますと47.73キロリットルぐらいになろうかと思えます。築上町が6211キロリットル、日量に直しますと17.02キロリットルぐらいになります。みやこ町さんが1万6328キロリットル、日量に直しますと44.74キロリットルということになります。合計で年間3万9962キロリットル、

日量に直しまして109.49キロリットルでございます。

なお平成29年度ですけれども、現在、まだみやこ町と豊前市とで運営しておりますが、同量ぐらいが見込まれております。

施設のメンテナンスについてですけれども、平成28年度の修繕料でよろしいでしょうか。

(内丸議員、頷く)

修繕料の合計ですけれども、5424万7873円を支出いたしております。なお、平成29年度はまだ途中でございますけれども、当初予算で8159万円を計上いたしております。

運営費でございますけれども、分担金で平成28年度の決算額でございますが、豊前市が1億2631万9千円、築上町が5219万1千円、みやこ町が1億1530万8千円でございます。合計で2億9381万8千円でございます。

分担金ですけれども、平成29年度は、豊前市とみやこ町になりますけれども、当初の予算額になりますが、豊前市が1億4580万8千円、みやこ町が1億2966万7千円、合計2億7547万5千円となっております。以上です。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

4月からの運営予想搬入量、及び処理量、予想される年間の運営費はどう考えておられますでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

4月から豊前市単独ということが濃厚になっております。吉富・上毛には継続してお願いはしているところでございますけれども、豊前市単独になったときの搬入量ということでございますが、平成28年度で実績が47.73キロリットルというのが日量になろうかと思っております。同程度が予想されております。

それから、平成30年度、今回予算要求をさせていただいている額を申し述べさせていただきますけれども、30年度の予算は、し尿処理の改良設計委託料1518万5千円を除きまして、運営費といたしましては、1億8209万4千円を計上しているところでございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

単独になるということだけで、三つの市町でやっていたとき、1億2000万円から1億8千万円ですか、6千万円も高くなるというふうになっています。これは、やっぱり単独というのはやはりお金が掛かるので、広域でやったほうがいいのかと思っております。

地元との協議や漁協との協議はどうなっていますか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

地元協議会につきましては、し尿処理の下水道投入方式への変更について御了解をいただいているところでございますが、吉富町・上毛町加入については合意に至っておりませんので、随時進捗状況の報告を行っているところであります。

なお協議会のほうからは、吉富町・上毛町と共に、安全で新しい処理方法の施設を一刻も早く建設できるよう、市を挙げて取り組むように、ということで御意見をいただいているところでございます。

関係漁協につきましては、現在協議はまだ進行しておりますけれども、随時同じように報告を行わせていただいて、速やかに御了解いただきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

下水道つなぎ込み方式で話しは進んでいると思いますが、下水道引き込み工事や新処理施設の工事着工などの計画はどのようになっていますか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

担当課ではございませんけれども、前処理施設の建設の遂行状態ということでございますが、前処理施設のほうは、もう少し吉富町・上毛町との協議が必要かと思っております。

下水道の工事については、平成30年中に工事を予定しているということでお聞きしております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

先ほどもちょっと答えていただきましたけど、吉富・上毛両町との加入協議の進捗状況を詳しくお願いします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

前回の12月議会の時にも、御説明いたしました。市長と共に何度か両町を訪問いたしました。平成30年の4月から一緒にできないかと、今の施設を利用して、先に一緒に事業を始めよう、というお誘いをいたしたところですが、了解いただけないとか、合意には至っていないという状況でございました。その中で、議長のほうにも足を運んでいただいたという経緯がございます。

その後のことについてですけれども、市町の担当者間では、加入に向けた協議を豊前市主導でお願いをしているという状況が続いております。ただ、先ほど言いましたように、30年度当初から一緒にやろうというのは、ちょっと困難になっておりますので、市としては、共同処理をまたやりましょうということで、今後も継続して動いていきたいと思っております。

平成30年の2月5日なんですけれども、豊前市の意向を示したいということで、吉富町外1町環境衛生事務組合に対しまして、書面にて、豊前市の公共下水道で処理を行うための前処理施設整備計画、それから豊前広域環境施設組合、今の既存施設を使った共同処理については、吉富町と上毛町、両方をお受けすることができると、いつでも待っています、ということで申し入れをさせていただいております。

また2月15日、きのう、上毛・吉富の議長さんもおいでいただいておりますけれども、上毛町の全議員さんが豊前の広域環境施設組合と豊前市の公共下水道処理施設、豊前市の浄化センターのほうに視察においでいただきました。その中で議員さんからの御質問・御意見多数ございまして、お答えをさせていただいたんですけれども、その中でも豊前市のほうは、吉富町・上毛町もういいですという話しじゃなくて、一緒にやりたいということを説明させていただいた上で、今後も御協議いただきたいということでお願いをさせていただいております。

また上毛町の議員さんからは、豊前市からより良い提案をいただければ、自分たちは、ちゃんと検討するよ、ということと言われておりますので、それに向けて頑張っていきたいと思っております。

また上毛町の議員さんからは、市長から要請があれば、審議に加わることもできるが、どうなのか、という話もありましたので、その辺は各首長様がおられますので、今後の協議になろうかと思うということで回答させていただいております。

初日の本会議で、市長の議案の上程、及び提案理由のところ所信演説がありましたけれども、豊前市の重要な問題でございますので、市長とともに事務方も頑張ってお申し入れを継続して行っていきたいと考えているところでございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

吉富・上毛両町との加入協議がうまくまとまればいいのですが、現在の状況を鑑みれば、まだまだ時間が掛かることが予想されます。そのときには、豊前市単独で下水つなぎ込み工事を行うのか、それとも加入を待って工事に取り掛かるのか、また、下水工事はどうするのか、お伺いいたします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

いま地元としても了解をいただいておりますので、一刻も早くというお話もあります。最初の質問で単独でやると経費も掛かっていると、今の施設から早く移行したほうがいい、という御意見をいただいております。

その中で、吉富町・上毛町が入っていただいてスタートするのか、もう先にスタートするのか、という御意見だと思えますけれども、豊前市としては、建設費、整備費用についても、吉富町・上毛町さんに協力いただきたいと思います。でも、いつまでも待つということでもございませぬけれども、一刻も早く共同処理ができる、申し合わせができるように努力していきたいと考えているところでございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

先ほどの吉富・上毛両町との加入協議の進捗状況の中でも少しありましたけれども、最終的に決定をするのは、市町同士の合意によるものだとは思いますが、3市町によるプロジェクトチームをつくり、各市町にどうすることが3市町にとって最善なのか、進言するという案もいいのではないかと思いますけど、それについてどうお考えでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

私は市長ではありませんので、どうするというのは言えませんが、上毛の議員さんの中からも、前に進めたいという御意見もありました。

その中で、議員さんも含めた会議ができるか、という質問もございましたけれども、その辺については、うちには組合長、市長がおりますし、両町にも町長がおりますので、事務方で御提案するとか、ちょっと協議をさせていただいて検討はしてみたいと思います。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

市長、その点はどう思いますか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

最終決定は、市長・町長との間でということだろうと思っております。そのためには、事務方でしっかり素案を練り、そして熟度を上げていくことが大切だと思います。

今その過程でございます。やはり両町の町長さんにもしっかり納得していただいた上で、合意形成を図り進めていきたいと考えておりますので、私としましては、まさに3人でしっかりタッグを組んで、ということで申し入れをしているところでございます。

これは交渉事でございます。相手様のあることでございますので、しっかりと努力をしていく、というところで答弁をさせていただきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

それでは、しっかり進んでいけばいいと思いますが、進むことを祈っております。

広域環境施設組合で580万円の予算を取り、新処理施設の建設費用、及び現施設の解体費用を計算してもらい、それをもって、築上町・みやこ町と交渉し、費用の分担や用地の問題を納得してもらっているのではないかと考えております。紆余曲折はありましたが、これでやっと前に進むことができると考えていました。

しかし、安価になる方法があるとして、現行の施設を一部流用するとのことで、新たに調査設計のために、前回の約3倍の予算をかけようとしております。流用する施設が新品の施設と同等の耐用年数が保証され、なおかつ設計予算以上の安価にならないと、ただ単に無駄遣いとなります。

また、これから先、吉富・上毛両町とうまく話しがまとまり、一緒に運営していくようになったときに、流用した施設が何年もせずに使用できなくなったり、改修に多額の費用がかかったりすると、責任問題に発展することが予想されます。さらに着工が遅れば遅れるほど、し尿処理の費用が嵩むことなど、そこまで計算した上で安価だと考えているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

平成28年度予算で、広域環境施設組合の予算で、し尿の下水道投入のための前処理施設の新設、及び既存施設の解体費用について設計をしていただいたという経緯がございます。

この組合の議会の中ですけれども、もうその時点で、築上町さんとみやこ町さんは、脱退するという話しが出ておりまして、もう豊前市だけだろうという話しの中で、無理をお願いして設計費を含ませていただいたという経緯がございます。その中で580万円という経費を、予算を組んでいただいたんですけれども、これは業者さんにも無理を言って安価をお願いした、という経緯はございます。

今回、今の既存施設の一部、建物などについては、また耐久性があるのではないかとこの話しもでございますので、その中で一部使って全体の経費、議員さんが言われますように、設計費用を含めてとかですね、それからいろんな問題、後の改修費用がどうなのかとか、いろいろあるかと思っておりますけれども、その辺を精査させていただいて、吉富町・上毛町も安くて、安全で長持ちする施設と一緒にやりたいと言ってくださるのではないかと思いますので、若干は時間がかかろうかと思いますが、私たちがいいからと言ってお勧めして、後でだめということでは、一番まずい展開だと思います。

なので専門家の御意見をいただいて、説明ができる状態になりたいなと思っておりますので、若干金額は、目に付くものがございますけれども、通常の価格ぐらいではないかと思っておりますので、今回、新年度予算に計上させていただいたという経緯でございます。

なお、この経費につきましては、新しいものを新設するか、それから古いものを一部使ってやるかという検討は今もやっておりますので、無駄遣いにならないようにしたいと考えております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

このし尿処理場の問題は、広域でやっていたのが単独になると、それだけで約6千万円も豊前市の費用がそこに使われるということになっております。この問題は、委員会でしっかりと協議していこうと思っております。

し尿処理場の問題は、早急に解決しなければ、市民に多大な迷惑、そして負担を掛けることにつながりますので、少しでも前に進むよう取り組んでいただきたいと思っております。

続きまして、ごみ処理場についてお伺いいたします。

ごみの最終処分場が、あと数年しかもたないというのは何年も前から言っており、新しい最終処分場はどのようにするのか、私自身も何回か質問しており、きのうの郡司掛議員の質問にもありましたが、この最終処分場の問題は進展していますか、もう一度お願いいたします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

昨日の郡司掛議員さんの御質問にもありましたように、組合の議会が3月1日に開催されました。その中でも、組合の議員さんのほうから、最終処分場はどうなっているのかという御質問もございました。

以前より上毛町の町長さん含めて議員さんからは、早めに最終処分場は終了したいというような意向もありますけれども、次の施設整備計画であるとか、移転先であるとか、それから処理方式であるとかを協議中のため決定に至っていない、ということで報告をされております。

組合議会のほうで、処理に掛かる経費について見積りもお願いしているところでございましたので、今後とも協議がされるものと思っております。豊前市としても、一緒に協議に加わっていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

最終処分場を一日でも長く使用するには、ごみの減量化が必要だと思えますし、市長も前々から、そう訴えていると思えます。企業に減量化を求めるのははじめ、一般家庭から出されるごみも減量化しなければならないと思っております。しかし、一般家庭にごみの減量化を浸透させるのは並大抵のことではないと感じております。

そこで、先日、環境衛生協議会で、古賀市のごみ処理施設を視察してまいりました。そのときに、その施設でごみ減量化の取り組みなどを分かりやすく説明を受けました。一般家庭の排出するごみより、施設で働いている家庭の排出するごみの量が半分程度とのことでした。ごみの分別やどうすればごみを減らせるか考え、行動することの大切さを改めて感じるとともに、このような方に豊前市に来てもらい、市民の皆様に指導してもらいたいと感じました。

そこで提案ですが、そういった方を招いて、企業や小中学校、市民に向け講習会・勉強会を開いてはいかがと思えますがどうでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

視察研修のほうには同行させていただきました。古賀市、それから福津市、それから新宮町ですかね、3町で行われている大変立派な施設で、高速道路から美しい建物が見えるという凄い施設でございました。中には最終処分場も併設しているということでやっておりますけれども、中々力があるなということを感じたところでございます。

議員さんが今言われましたように、中にはボランティア団体というか、NPO団体というんでしょうか、そういう方たちが、ごみの減量化の知恵を絞って、それから学校の生徒

さん、それから視察を受けて、そこでごみの減量のワンポイントであったり、知恵であったりを説明しているというのを受けまして、私たちもそれで、こういった方法があるのかとかですね、現状について詳しく知ることができたと思います。

豊前市では、豊前市の職員が各小学校に、4年生ぐらいのちょうど授業にあたるんだと思いますけれども、説明に行かせていただいております。

専門家、先進地の知恵もあろうかと思いましたが、そのNPO団体の職員さんは、普通の一般家庭よりも、本当に議員さんの言われるように半分以下のごみで済んでいる、出していると、その努力をやっているということでございましたので、主婦の目線も、もちろんあったかと思えます。

そういうものが生かせるようにですね、豊前市の女性グループであるとか、老人会であるとか、もちろん小学校の子どもさんたちもしかりですけれども、そういうところで講演会ができたというのは、中々いい取り組みかなと思いますので、これからちょっと検討していきたいと思えます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

ぜひとも、前向きの検討をよろしく願いいたします。環境衛生協議会で視察した施設は、先ほど課長のほうからもありましたけれども、古賀市・福津市・新宮町の3市町による広域運営を行っております。規模は、人口約15万人、総工費200億円の立派な施設です。

ランニングコストは毎年約10億円で、大規模改修等しなくて済むように、定期的にメンテナンスをしており、こちらの施設と比較すると、はるかに安いコストで運営しております。焼却熱を利用する蒸気タービン式の発電施設もあり、ごみ処理施設の電力をほぼ賄うほか、余剰電力は売電しており、使用電力3千万円に対し、発電は4千万円で1千万円の黒字だそうです。

また焼却されたごみは、金属類と焼却灰に分けられ、金属は売却され、焼却灰は燃焼熔融後、スラグ化して道路舗装の資材として売却されております。最後に残った脱塩残渣は、重金属と塩に分解、安全に処理された塩は海洋投棄され、準備されている最終処分場は現在使用されておりました。

そこで、豊前市も京築という大きな枠組みで、最終処分場などを考えなくても済み、エコで運営コストも安い施設を検討しても良いのではないかと思います。いかがでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

組合の議会もございますけれども、豊前市の一担当者としての意見でございますが、よろしいでしょうか。

(内丸議員、頷く)

私も視察に行きまして、今言われたように、最後にごみが残らない、最終処分場も必要ないと、立派なものを造ったけれども、全然中にはありませんよと。どういう処理方式でというのがよく分からないんですけれども、最後は塩になって海に戻っているというすばらしいものを見学させていただきました。

その中で、3市町ですけれども、15万人ぐらいな規模で大きい、新宮町・福津市等は、いま人口が増えているということで、そういう予算もかけられるんだと思いますけれども、そこまで追求した発電まで行える施設を建てたというのが素晴らしいことだったんじゃないかなと思います。

枠組が大きければできるんじゃないかという御意見だと思いますので、その辺は、また組合の議会もありますし、組合の事務局とも話していきたいと思いますけれども、また組合の議会でとかそういう御意見をいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

市長、この件について、お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

我々が生活する上で、また企業活動を行う上で、ごみは必ず出てくるというのが常識でございます。これを、目の前ではやはり減量していくというのが分かりやすい環境対応だろうと思います。

この減量についてしっかりと取り組んだ上で、なおかつ出てくる部分については、処分をしていくという、そういう流れがありますので、その流れを大きくすること、規模を大きくすることで負担を減らし、効率良く、また安全で環境を保ちながら処分できていく、その方向というのはひとつの方法だろうと思います。

その方向を、我々だけで、今ここでどうのこうのというわけにいきませんので、そういうしかるべき場で、また協議をしていきたいと思ひますし、運営の仕方についても、知恵を絞っていかなければというふうに思っております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

し尿処理場、ごみ処理場は、どちらも一朝一夕にできるものではなく、近隣の市町や地域住民との信頼関係の上に成り立つものだと思います。クリアしなければならない問題が山積しておりますが、一つ一つ丁寧かつ迅速に取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、観光行政について質問いたします。

豊前市も交流人口を増やすために、いろいろな取り組みをしていると思いますが、どういったことをやっているのか、お答え願います。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

お答えいたします。交流人口の大きな役割として観光事業があると思っています。中々豊前市には、黙っていてもどんどん来てくれるような大きな観光地はございませんので、きめ細かい方策、また情報発信です、季節それぞれのイベント、それからいま人気の森林セラピー、それから花、そういう情報発信をしてですね、その都度イベントを開催したりして、観光客を呼び込んでいるような状況でございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

いま観光地や宿泊施設、コンビニなど、無料Wi-Fiを設置して、来ていただいたお客様にサービスを提供しているところが増えてきております。

現在、豊前市の公共施設、観光拠点で無料Wi-Fiを設置しているところは、どれぐらいありますか。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

お答えいたします。現在、観光施設で無料Wi-Fiを設置しているのは、道の駅豊前おこしかけだけでございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

観光拠点である、求菩提キャンプ場周辺や豊前神楽の定期公演などを行っている多目的ホールや体育館などのスポーツ施設周辺、道の駅は今あるということだったんで、うみてらす豊前などに無料Wi-Fiを設置することで、来ていただいているお客様の利便性を高

め、またイベントなどを無料W i - F i を通じて、全国に配信してもらえないかと思いますが、設置に向けての考えはどうでしょうか。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

お答えいたします。無料W i - F i につきましては、観光客の利便性を図り、回遊を促進するという意味で、豊前市でも取り組みたいと考えております。

実は、補助事業でひとつ申請して申し込んだ経緯がありますが、残念ながら通らなかった経緯がございます。今後も、費用が掛かりますので、できる限り補助金や助成金を活用して観光施設に無料W i - F i を設置していきたいと思っております。

またキャンプ場やト仙の郷など、宿泊施設にはW i - F i がやはり必要じゃないかと思っていますので、指定管理者とも協議して、道の駅みたいに独自で設置してもらおうということも考えながら推進していきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

今後は、無料W i - F i が当たり前の世の中になっていくと思っておりますので、よそよりも少しでも早く取り組んだほうがいいのではないかと思いますので、前向きな検討をお願いいたします。

続きまして、今年度、一般質問で質問したことについて、どうなったのかお聞きします。

まずは、定住促進について質問したときに、豊前市にある企業に転勤して来る人は、ぜひ豊前市に住んでくださいと企業にお願いしてはいかがですか、と質問いたしましたが、現況を教えてくださいたいと思っております。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

おはようございます。質問にお答えをさせていただきます。

議員の御指摘にございましたけれども、豊前市に新規に企業進出をさせていただいているような企業などについては、個別に御案内、呼び掛け等をさせていただいた事例もございますけれども、議員の御指摘のような、全体、多くの企業さんに向けてというところでは、まだ取り組めてない状況でございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

きのうの質問の中でありましたけど、Uターン・Iターン・Jターンの企業説明会ですかね、そのときにいろいろ説明したということだったんですが、転勤で来る方だけではなく、企業に勤めていて結婚される方など、多岐に渡って声を掛けるなど、豊前市も市に住んでもらうために営業努力をしないと、人口減少に歯止めがかからなくなるのではないかと思いますので、今後どうしていくのかというのを、ちょっとお伺いいたします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

お答えいたします。議員の御指摘のとおりでございます。やはり豊前市での現在の取り組み、第3子以降保育料の無料化であったり、子ども医療費の軽減であったり、子育て支援、あるいは新婚家庭家賃助成制度、定住促進補助金などの豊前市におけます定住促進の施策、あるいはそういう様々な豊前市の行っている制度を、やはり情報提供して知っていただくことで定住促進につなげていくということは、大変重要なことだろうということで認識をしております。

先ほど、ちょっと私のほうが言い忘れましたがけれども、企業合同就職説明会の折には、参加企業さんのほうに事前に定住促進住宅の利用の案内であったり、定住促進にかかる様々な施策を掲載したパンフレットで、制度の周知を図ったところです。

今後は関係課と連携をいたしまして、企業さんを対象に各制度の周知、定住の呼び掛け等を検討して、継続的に実施をして、定住促進につなげてまいりたいというふうに考えてございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、先日の新聞にも載っていましたが、中津街道に木製の灯籠を置き、情緒あるまちづくりをしていこうという活動に対して、市をPRする一環として何がしかの援助ができないか、と質問しましたが、この件はどうなったのでしょうか。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

おはようございます。御質問の件でございます。前回、御質問いただきましたときにお答えをいたしましたように、いま豊前市の文化財・歴史資産等を活用するマスタープランとして、豊前市歴史文化基本構想というものの策定を進めておりまして、本年度、地域毎の細かな資源の特定等をしております。

それで、平成30年度がこの計画の取りまとめになりますので、この中で中津街道沿線の文化財の状況等についても、具体的な計画を示していきたい、というふうに考えております。

御指摘の灯籠の設置等につきましては、中津街道の歴史的環境を整備する上で、非常に有効な取り組みであるというふうに考えておりますので、この基本構想の中でどのような位置づけができ、そしてそれを活用して、この先どういうふうな取り組みができていくのか、詳細について検討してまいりたいというふうに考えてございます。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

木製の灯籠をもっと増やしていくという計画もあるそうですので、魅力ある豊前市をつくるためにも、前向きの検討をよろしくお願いします。

続きまして、ごみ処理施設の施設紹介のビデオとパンフレットが古すぎて、現行施設に合っていないので、最新の情報が掲載されたパンフレットやビデオを作成し、見学に来た小学生や一般の方々に正しい情報を伝えるため改善を検討してほしい、と質問しましたが、その後どうなったのでしょうか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

組合の、清掃施設組合の事務局のほうに確認をいたしましたけれども、30年度で予算を取って更新していきたい、ということでございました。業者から見積り聴取の準備中ということでお聞きいたしております。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

最後に、防災対策として、倒壊の恐れのある危険なブロック塀を所有する方に、周知啓発をし、ブロック塀の撤去、またはブロック塀の撤去と共に、安全な工作物を設置する工事を促すきっかけづくりのために、補助金を整備してはどうか、と質問をしましたが、その後どうなったのでしょうか。

○議長 磯永優二君

都市住宅課長、答弁。

○都市住宅課長 向野隆裕君

昨年3月議会において御提案いただいた、危険なブロック塀に対する解体費用の補助事業の創設でございますけれども、近隣では福岡市や大分市など、体力のある自治体、それ

から地震の多い地方で補助制度を設けているのを見受けられますけれども、補助制度に対する、現在、国や福岡県の補助がない状況でございます。市単独での補助は、現在のところ難しい状況でございます。

国や県に、支援措置を働きかけをしながら、どのようなことができるか、研究してまいりたいというふうに思います。

○議長 磯永優二君

内丸議員。

○2番 内丸伸一君

よろしくをお願いします。

し尿処理場やごみ処理場の問題、市民の安全・安心、生命、財産を守ることが、我々の使命だと思っておりますので、危険な箇所などは早急に改善し、必要な生活インフラはきちんと整備して、市民が安心して生活できる豊前市をつくるため、力を合せて頑張っていきたいと思っておりますので、執行部のほうもしっかり取り組んでいただきたいと思っております。

これで、私の一般質問を終わります。以上です。

○議長 磯永優二君

以上で、内丸伸一議員の一般質問を終わります。

続きまして、平田精一議員。

○6番 平田精一君

平成豊明会二番手の平田でございます。質問は、行政サービスの向上と広域連携についてと観光問題についての、2点を質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、1点目の行政サービスの向上と広域連携について、お伺いします。

先ほど同僚の内丸議員が質問したような質問になりますけれども、私ども議員の中で、先日、議会運営委員会と産業建設委員会で視察した、兵庫県小野市と比較しながら、豊前市の行政サービスを考えてみたいと思っております。

小野市は、現市長が民間企業からの就任ということで、民間の手法を取り入れ、行政経営戦略4つの柱として、顧客満足度志向、成果主義、オンリーワン、後手から先手と管理、といった方針を立て、職員の意識改革を行った先進的な市であります。ただ、行政サービスを見ると、豊前市もそう遜色ないサービスを行っていると思っております。

まず、経費削減のために、職員を削減したと説明を受けましたが、豊前市もかなりの職員の削減をしていると思っておりますし、小野市の重点項目としてあげた4項目のサービスの内容を見て比較してみても、安全安心に暮らせるまちの創造の中のサービスのコミュニティの中で、コミュニティバスの運行、LED防犯灯の新設、安全パトロールとありますが、豊前市も市営バスも早くから走らせ、いまやデマンドタクシーの実証実験もやったり、LEDライトも順次設置され、安全安心もやっていると思っております。

二番手の子どもが輝く子育て、教育環境の充実の中でも、高校3年まで医療費の完全無料化というのは、やっているんですけども、豊前市は、もちろん御存知だと思いますけれども、保育料3子目無料化というサービスもやっています。

そういったサービスをどんどんやっているわりには、豊前市の知名度っていうのが中々上がってこないのは、どういった原因だと思われるでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

質問にお答えをいたします。やはり、いま議員さんのほうから御指摘ございました、近隣も含めて、どこの自治体も同じような施策をしている、というのが現状だろうと思います。

ただ、その中でひとつ、やはり知名度があるところというのは、特色のある、そこにしかない施策をやったり、あるいはその地域性、個性のある地域の特徴を生かした取り組みをやったり、あるいは、やはり同じような取り組みをするにしても、PR、その魅力の伝え方、情報の発信の仕方、やはり各自治体の差が出ているのが現状ではないかということと認識をいたしております。

○議長 磯永優二君

平田精一議員。

○6番 平田精一君

そうだと思うんです。サービスが均等化してきているというか、サービスの上にまたサービスを乗せていく、サービス産業になってきている。福祉というのが、どんどんサービス産業になってきているんで、特別化できないというか、豊前市が目立たない状態になってきているのかなと思います。

さっき言ったように、やはりPRというのは、絶対に必要だと思います。第3子保育料無料化というのも徐々に広がって、この前打ち合せの中でも、豊前市が保育料の3子を無料化するの、福岡県下でも、そんなに遅いほうじゃなかったと思いますけれども、実際どうなんですか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

第3子の無料化に取り組んだ時点では、近隣、町村等ではございましたけれども、豊前市での第3子の無料化を図ったというのは、県内の市では、当時は豊前市が初めてだったかと認識してございます。当然それから数年を経過しておりますので、現状としてはかなりの自治体で実施はされているだろうかとは思いますが。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

地方自治が、財政の厳しい中で、こういうサービスをすることによって、実際は国を動かすのかなと思います。国も、もう幼児教育無料化というのをうたっていますし、医療費も中学生までという、国が動き出してくるのかなと思いますし、大変財源厳しい中ですが、それをやることによって、国を動かし地方自治が少しでも財源が軽くなってくるのではないかと思いますので、しっかりやっていただきたいと思っています。

続いて、今度は豊前市行政サービスのための機構改革として、いよいよ4月より部長制度を発足するわけですけど、部長制度について何点かお伺いします。

まず、市長に、どういった理由で部長制度を敷こうと思ったのか。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

同じような質問を何度か受けておりますので、食い違いがないようにと思いますが、従来の豊前市がとっておりました制度では、市長・副市長、そして課長・課長補佐・係長とこういう制度になっておりました。

この中で、どうしても課長さんに負担がかかってくる。ただ、課長さんも追いつめられると副市長さんのところに行って相談する。そういう意味では、非常に良くできた制度ではありますが、偏ってしまうところがある。やはり庁内の風通しも良くする、つまり情報が良く通るようにする、そして組織として、きちっと動けるように機能強化するにはどうしたらいいんだろうかと。

そうしたときに、かつては議会のほうからも、部長制導入を働きかけていただいております。それを再検討しまして、副市長制度と部長制度をさらに重ねていくということになれば、この小さな組織の中で、多重性というのがもっと多くなりますので、もっとスリムにする、もっと簡便にする。風通しを良くするためには、副市長に代わる場所に部長を位置付けていく。

そして分散化することによって、グループ化によって、その今は15、6人程おります課長さんたち、その上に同レベルの所属長という制度がありますが、その単位になりますと、どうしても多くなり過ぎる。やはりグループというのは、6、7人がせいぜいではないかと言われておりますので、そういう中で、グループ協議をし、いわば連帯として、グループとしての連帯責任を取る。

今までですと課長さん同士で、うちの仕事ではないと、隣どうして仕事を譲り合うというか、うちの仕事ではないですよという部分が、どうしても壁ができてしまう。それをグ

ループで共有することによって解決していくのができるんじゃないのかと。そういう意味での、それを解決する手段としても、方法としても部長制というのが望ましいのではないかという判断にまとまりました。

そういうことによって、組織としての強化をしていく。これが市民サービスの向上につながるということから、選択をさせていただいたというところでございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

もちろん部長制はいいことだと思います。いま市長が言われたように、本当に小野市もそうですし、結局ですね、職員の意識改革が必要だと思うんですよ。今まで、縦割り、縦割と言われていましたね。総務課なら総務課の中でしか話しができてない。

今後ですね、総務課長にお伺いしますけど、どういった組織で運営していくのか、会合はどういった会議をもっていくのか、ちょっとお伺いしたいなど。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

今後の部長制の導入について御質問いただきましたので、お答えします。

実施に当たりましては、限られた財源と人的資源を有効活用することを念頭に、職員数に留意しつつ、住民サービスの向上、市民に分かりやすく、効率的・効果的な政策推進を図るための、組織の実現を目ざしていきたい、というふうに考えているところでございます。

部制の導入により、部を単位として部長がよりマネジメント能力を発揮し、意思決定の明確化と強化を図るための体制をつくっていききたいというふうに考えております。

特に、政策課題は先ほど市長のほうからありましたが、横断的で課の壁を超えて取り組む必要がございます。各部長のもと、関係課の連携を強化し、実行責任の明確化を図っていききたいというふうに考えております。

また、複雑化する住民ニーズや行政課題に迅速に対応するため、各部長に従来の副市長の決裁権限を与えるとともに、市長・副市長・課長・課長補佐・係長という、この5層の機構を市長・部長・課長・係長を基本とする機構に改め、組織のフラット化を図っていききたいというふうに考えております。

各部長のもとに、組織として、チームとして、職員が連帯して責任を持ち、そしてその壁を乗り越えるところまで支え合うようなチーム。市長がそういう意向でございますので、それに沿って事務方として進めていきたいと思っております。

各部については、それぞれ市長とともに毎週部長会議を開いて、さらに部課長会議を開

いて、市長の指示を末端まで届かせるとともに、各課・係のそういう課題を迅速に市長のほうに伝える、そういう組織運営に努めていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田精一議員。

○6番 平田精一君

良く分かったんですけど、議長、ちょっとこの資料を出してもいいんですかね。小野市のやつですね。

○議長 磯永優二君

はい。(資料配布あり)

○6番 平田精一君

ほとんどの議員が持っていると思います。13人の内、11人が視察に行きましたので。その中によく見ると小野市の方針管理制度というのがあるんですね。

これは市長の考え方を職員の皆さんに、こうやりたいと、こういう方向で、こういう政策をやりたい、という方法でやる場合だと思うんです。いわゆるトップダウンですよ。市長から方針を示して、部長にあって、課にあって、係長にあって。ここでやっているのが、ぐるぐる巻きなんです。ぐるぐる巻きじゃおかしいですけど、プランを立てたら、方針を実行して、それを査定してうまくできたのか、できなかったのかを、また市長に返してくると。ここができれば、もうやめればいいわけなんです。

こういう政策をいま総務課長が言われたように、市民に見せているかというのはあると思うんです。今からの方針を、今から例えばこういう政策をやりますというときに、市民に分かりやすく示しているか。内部でございまして、ああ決まりました、じゃなくて、市長の発想がトップダウンするんなら、部長にあって、係長にあって、こういう段階で、この政策はここで失敗しました、成功しました、というものを、やっぱり市報あたりに報告すべきだと思うんです。それをやれると思いますか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。今のお話しは、たぶん市長の今回、所信表明をすれば、それに沿って各部の部長が方針を立てて、1年間をこういうスケジュールでやりたいという方針を各課長に渡し、課長がそれに沿って係長に指示して運営していくと。そういう1年間の目標管理をどのようにシステム化して、またそのシステムを住民の皆さんに分りやすく伝えるか、というような仕組みだろうと思います。

私どもも、もう28年度から人事評価制度を導入している中で、各課長がやはり年間の

重点項目を3つぐらい掲げまして、それに沿って各係長に指示を出して、それに対する評価を毎年P D C Aサイクルに沿ってやっていくという仕組みを、いま構築しているところでございまして、30年度から部長制が導入されるということで、その見直しを今かけているところでございます。

いま議員さんから、本当に兵庫県小野市というのは、全国的にも先進的な自治体でございまして、もう10年以上ぐらい前から、この制度を導入してやっている。これが地方自治法上、これからの時代は有効だということで、そういう改正があって、各自治体にもそういうことを導入しなさいということになっておりますので、ぜひですね、いま御提言がありましたことについては努力していきたい、というふうに考えているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

いわゆるトップダウンというか、市長の方針を皆さんが話し合っ、て、こういうふうにしますよ。打ち合わせの中で、市民からの声をどう取り上げていくのかということをお聞きしましたよね。

小野市は良く考えているんですよ。情報の一元化と水平展開。常に担当者が報告を秘書にやって、秘書が市長に報告して、そして市長がこの問題に対してこういう答弁をやりなさいと。それを担当にやる。その情報というのは、各部長に全部いくようになっているんですよ。

だから今まで縦割りやったんですね。税務課なら税務課、総務課なら総務課の問題を取り上げて、市長に相談して、ああ、こういう判断にしなさいと。その情報というのは、縦ですから、そこしか通じてないわけですよ。せっかく部長制にするんなら、その情報を皆に共有化することによって、豊前市がいま考えていること、いま悩んでいることが、部長には全部分かるようにしなくちゃいけないと思うんですよ。そういう組織づくりをやるつもりはないですかね。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。以前から議会から何点も指摘されております、要望・陳情活動について、各課がそれぞれ十分に情報共有していないというような状況でございます。

市民からの、いろんな要望についてはメールや目安箱、また生活環境課にある、市民相談窓口あたりを通じて、各課に分散しているところでございますが、そういうものをやれば一元化するということは、ぜひ必要だろうというふうに考えておりますので、ぜひ小

野市さんの情報いただきましたので、参考にして今後検討していきたいと考えます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

それをやれば、市長・部長あたりの仕事量というのは、かなり増えてくると思います。大変だと思いますけど、しっかりやっていただきたいなと思っています。

もう一点ちょっと心配なのが、この前テレビ報道されていましてよね、朝倉市の市長さん。災害によって心労で、ちょっと病気になられて何カ月か休まなくちゃいけないということになっているみたいです。

その中で、現実にもう副市長はいません。市長だって完璧ではなく、何があるか分かりません。もし市長が倒れたときには、その間は、どういった運営体制でやっていくのか教えていただきたいと思っています。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

お答えします。その関係については、職務代理者の問題だろうというふうに考えます。

現在、職務代理者の優先順位としては、市長が欠けたとき、不在のときは、副市長が代理をするということですが、その後に各部長が今度できますので、部長の優先順位を決めてですね、規則等で定めて、それに沿った中で職務代理を推進しているというかたちになろうかと思っています。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

そういうことになっちゃなんのですけど、もしあったときは、しっかりそういった組織づくりをやっていただきたいなと思っています。

最後に、部長制を敷いている市は、福岡県の中で何市ぐらいあるんですか。

○議長 磯永優二君

総務課長、答弁。

○総務課長 池田直明君

ほとんどの市が部長制を敷いておりまして、敷いていない市が豊前市、嘉麻市、うきは市の3団体だったと認識しております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

だから部長制を敷くというのは、そう珍しいものではないわけです。全国的に見てもですね。隣の中津市や行橋市あたりも敷いていると思います。

ただ今回は、副市長の存在がないということで、その中で部長制を敷くということで、かなり注目度を浴びることになると思いますし、しっかりやっていただかないと、注目度の高い分だけいろんなことを言われる可能性があると思いますので、せっかく部長制を敷くなら、いい組織をつくっていただきたいなと思っています。その点、市長、最後に。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

豊前市のような小規模な自治体で、部長制という選択をしました。ただ副市長を含めて5層あった段階を4段階にということで、フラットな情報の共有しやすい、先ほど議員が言われましたように、やはり情報を共有し、同じ目標に向かっていくという、そういう組織にしなければならんと思います。

そういう機能を充実するためにも、この部長制をしっかりと動かして機能させ、住民サービスがより以上、今まで以上にできるように努力をしていきたいと思っています。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

しっかりやっていただきたいと思っています。続きまして、広域連携についてお伺いします。国の地方創生の政策の中で、やはりこういう地方自治体、小さい市だけでは物事はうまくいきませんよと。人口増、移動の問題、いろんな問題がある中で、圏域をつくっていきましよう。それでその中に1段階、2段階、3段階とあるんですけど、集落ネットワーク圏の作成と定住自立圏構想、連携中枢都市圏の形成とありますけど、1個ずつ聞いていきたいなと思っています。

集落ネットワーク圏の形成。基幹集落を中心に複数の集落をまとまりとする集落ネットワーク圏、集落の組織力を高めるため、地域おこし協力隊や部落支援員などを拡充、とありますが、豊前市ではどのような政策を行っているのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

いま議員さんの御指摘のごさいました、第1段階という部分だろうと思いますけれども、そういう定住自立圏、連携中枢都市圏というところでの、構想に基づいた取り組みというところでしております。

いま議員さんの御指摘のあった集落ネットワークづくりというふうな観点での取り組みというところは、できてないところではございましたけれども、一つ例に出されました、地域おこし協力隊については、議員さんのほうも御案内のとおりだと思いますので、今ひとつは、やはり地域の活性化ということが目標でありますので、定住促進もありますけれども、地域自体の活性化を図っていくというのも重要な目的でございますので、そういう意味で地域おこし協力隊の方には、その地域、小地域の中で頑張らせていただいているという状況でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

地域おこし協力隊の方も、たくさん来られていますし、それがうまくいっているのかどうか、ちょっとお伺いしたいんですけど。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

現在ですね、7名の方に地域おこし協力隊として頑張らせていただいております、それぞれ分野が分れてございます。観光振興ということでお二人、それと、うみてらす豊前の施設の活性化ということでお一人、それと魅力の発信でプロデューサーということでお一人、それと牡蠣漁師ということでお一人です。あと二名については、合河地区・岩屋地区にお一方ずつとして地域の活性化ということで入らせていただいております。

それぞれ皆さん独自の活動をしていただいております。その中で、好評をいただいている部分もありますし、ただ課題というところも議会のほうからも御指摘、あるいは地域のほうからも御指摘をされている点がございますけれども、まだ地域に入っている二人については、もう1年任期がでございます。その中でしっかり地域の活性化につながるように、あるいは定住につながるように頑張らせていただきたいと、期待をしているところでございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

ぜひ頑張らせていただきたいと思います。まず集落ネットワークを、ひとつの小さい豊前市の中の核をしっかりしようよと。それで足りないものを、定住自立圏構想ですね、皆さん御存知だと思いますけども、この中津市を中心として定住の受け皿を形成、定住自立圏によってどのようなことをしているのかということをお伺いしたいと思います。

やはり、人口5万人以上の市が核となって、だからどうしても中津が中心になるから、

中々おもしろい話じゃないと思うんですけど、できないことを皆で話し合いながらやるということが定住自立圏だと思いますけど、いま実際どういう動きをやってきたのか、お伺いしたいと思います。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

質問にお答えをいたします。まず、それでは定住自立圏とはどういうものかというところから御説明を申し上げたいと思います。

いま議員さんのほうからも御案内がございましたけれども、まず定住自立圏の要件といたしまして、目的としては、地方圏におきます定住の受け皿の形成を目的としておりまして、中心市が原則人口5万人程度の市を中心市としまして、中心市に生活に必要な都市機能等の一定の集積があって、近隣の市町の住民もその機能を活用している圏域、これを要件としましょうということで、その中でお互いの持つ資源・機能を生かして、圏域住民が安心して暮らしていける地域づくりと圏域の一体的な発展、及び定住促進を図ることを目的としております。

豊前市が参加をしております定住自立圏につきましては、中津市を中心として、豊前市・築上町・上毛町・宇佐市・豊後高田市の6市町の圏域におきまして、平成22年度から九州周防灘地域定住自立圏として、連携して取り組んでいるというところでございます。

この取り組みの大きな3本柱として、生活機能の強化、結びつきやネットワークの強化、あるいは圏域マネジメント能力の強化、これを3本柱として様々な事業に取り組んでいるという状況でございます。いま50以上の事業に取り組んでおります。

ただ豊前市が関係をしております主な取り組みといたしましては、中津市民病院の小児救急センターの支援事業、それと本市と中津市により共同運営しております、コミュニティバスの運行事業、それと勤労者福祉サービスセンターの活用などがございます。

取り組み開始から8年を経過しているところでございますけれども、それぞれの取り組みの状況ですが、医師確保等の課題等もございましたけれども、小児救急医療体制、現在もしっかり安定維持が確保できているという状況でございます。それと、コミュニティバスの利用者についても、毎年上昇傾向にありまして、圏域内のアクセスの向上も図られている。それと勤労者福祉サービスセンターの加入者数についても年々増加をしているということで、中小企業従事者の福祉の向上も伺える状況にありまして、目標としております圏域内の生活機能の強化、ネットワークの強化など、様々な面で成果が表れているのではないかというふうな認識でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

定住自立圏というのは、豊前市の中でも安定した言葉になってきているんじゃないかなと思います。もう市民の皆さんもかなり知っている人が多いんじゃないかなと思いますし、議会の中でも議長を中心に交流がありますし、先日もへたなソフトボールをして、何人かけがをしたこともあります。そういうお付き合いもして中々深くなってきているのはきているんだと思います。

だから、これを今後ですね、継続していくということが一番大事だと思いますので、しっかりやっていただきたいなと思っています。

次に、国が示したように、やっぱり定住自立圏だけでは、もう人口減少に歯止めがかからない、医療に不足が出てくるという問題が、どうしても地方はどんどん人口減少が進んでいますので、次に打ち出したのが、連携中枢都市圏の形成ですね。

地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市、これ人口20万人以上が近隣市町村と連携して、連携中枢都市圏を形成。いま実際、豊前市が入っているのが、北九州を中心に発足しているものが、どの程度進んでいるのか。いわゆる産学官の共同研究や新製品開発、6次化産業の支援などがあると思いますが、会合をされていると思いますが、どの程度進んでいるのでしょうか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

連携中枢都市圏について、御説明をいたします。

連携中枢都市圏の取り組みにつきましては、28年の4月からその取り組みが始まりまして、議員の御案内のとおりですね、社会的・経済的に一体性を有する圏域で、経済社会を維持できる規模での連携を図っていこうと。大きく経済成長の圏域、高次の都市機能の集積強化、及び生活関連機能サービスの向上、この3本柱で、いま70近い事業に取り組んでございます。

ただ、豊前市のほうが直接、事業費等を負担して実施している事業等といたしましては、観光振興を目的としております、昨日、為藤議員さんのほうから御質問もありました、地方創生の推進交付金を活用した事業で取り組んでいる事業がございまして。

これについては、昨日も説明をさせていただいたとおり、4年間の事業として取り組んでおりまして、一定の成果を得ております。今後も特産品等の販路の拡大に向けて取り組んでいこうという状況でございまして。

ただ、後の様々な多くの取り組みに関しては、やはりこの取り組みが、まずは中心市であります北九州市がしっかりと、その基盤・基礎づくりをしていただかないと、圏域の発展につながらないということがございまして。まずは、ですから鍵となる北九州市の発展が、

まず第1歩であろうというところで、北九州市を中心として、今その取り組みが進んでいると。ただ、まだ2年目でございます。今後ですね、その評価・検証を踏まえて、具体的な連携・展開が、今後検討されていくというところになってございます。

それで、その推進体制としては、担当の係長・課長の会議がまずございます。そういったところで、具体的にどうやって進めていくのか、どういうところを進めていくのかというところを協議いたしまして、その先、課長級の会議もございます。それと産官学揃いませた協議体もございます。それと市町間の取り組みもございます。そういったところで議論をしていると。

担当間の議論としては、もう年間2～3回というところで精力的にさせていただいている状況ですので、今後しっかりと取り組み状況の評価・検証をして、圏域全体の発展につなげていきたいという状況でございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

もう課長言われたように、本当に北九州が元気にならないと。やっぱり福岡市が元気になれば、周りが相当元気になっているわけですね。やっぱり中核都市が元気になってもらわないと、やっぱり周りは中々元気にならないのかなとは思います。

私も同僚の黒江議員の紹介で、いわゆる北九州の市議会と、私は2回くらいしか行っていませんけど、その中で話したことは、元気になってくださいと。僕らの地域も元気になりますからと。

ただ一番心配なのが、6次化産業、新しい商品を作ったら、やっぱり隣接している市ですから、同じような商品が出てくるんじゃないかと。その差別化をどうやっていくかという問題は話したことはあります。その点はいかがでしょう。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

きのうも若干触れたところではございますけれども、今この中枢連携の取り組みで、東京の浅草にあります、まるごとにつぼんのほうに豊前市からも、10数品目を出しているところでもあります。

ですので、どうしても北九州市が目立って、他のところはどうかかというのは、以前にも御指摘をいただいたことがございますけれども、そういったところで出店をしてすれば、そこで1位を獲得すれば、あるいは注目を浴びれば常設の店舗でも展示販売をしていただけるという、具体的な販路につながっているというところを見てもみますと、やはりしっかりそこで、一つ一つの自治体、一つ一つの特産品が勝負ができていくということでは

ないかと思っております。

その中で出店することで、そのトップを取った販路の拡大の実績を上げたところではなく、他の出店者、事業所もやはりそういったところを頑張らなければいけないというふうな波及効果・相乗効果が生まれてくるんじゃないかというふうに認識をしております。

それぞれの自治体・事業所がしっかり、その現在の取り組みを認識して、他との差別化・販路の拡大に向けて取り組んでいるものと認識をさせていただきます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

せっかくできた組織ですので、豊前市がいかに活用できるかで、今後にかかってくると思いますので、しっかりやっていただきたいなと思っています。

続いて、観光問題についてお伺いします。いよいよ念願の観光協会が立ち上がりました。課長にお伺いします。観光協会の目的・役割とはいったい何なんですか。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

お答えいたします。観光協会ですね、豊前市だけではなく、近隣の市町村にもいま設立して、業務を行っているところでございます。豊前市は、先ほど答弁しましたように、どうしても大きな観光地がございませんので、細かい作業をやりながら情報発信をしていかなくちやいけないと思います。

その中で、豊前市は各地でいろんな小さい観光地が頑張ってやっているんですが、そこをひとつにまとめる、情報の一元化、また情報発信の一元化、そこが一番大きな役割だと考えています。

将来的には、いわゆる一般的な観光業務あたりを全部集約して観光協会に担っていただければ、一番いいかたちじゃないかと考えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

そうですね。一元化するということは、情報発信がひとつになりますので、豊前市の中の小さいものを集約できるということで、凄くいいことだと思います。

一つお願いがあるのが、観光協会の中の委員として、理事まではいかないとしてもですね、僕がいつも言っているんですけど、1次産業の若手を入れてほしいなど。新しい商品を作るにあたって、原材料を作っているのは1次産業です。イチゴにしてもイチジクにしても作っているのは1次産業の農家の方だと思います。それを加工する業者がおり、そ

れを販売する人がおる。やっぱり販売までいかないと、中々うまくいかないと思いますし、ぜひお願いしたいのが、そういう1次産業の若手の人を協会の中に取り入れてやってほしいなとは思っていますので、ぜひ考えておいてほしいなと思います。

その中で、現在観光施設として運営しています数点についてお伺いしたいと思いますけど、道の駅について、現状はどうなっているのか、どのような政策を考えているのか、お伺いします。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

道の駅も昨日御報告しましたが、平成27年から28年にかけて、28年の4月に東九州自動車道が開通をしまして、入込客数ベースでいきますと、69.5%、売上で73%というような感じで落ち込みがありました。今年になってから、いろんな情報発信や会員の呼び掛け等をやったところではございますが、7月に朝倉の豪雨のときに、やはり2割ぐらい落ち込み、また10月に台風が直接きたときに、臨時休業等を余儀なくされて落ち込んだ経緯がございます。

ただ12月からお客さんが、前年よりも少し微増の状態です。今きていますところでございます。道の駅としては、かなり頑張っているんじゃないかと思っています。

また昨年度から経費節減等に、そしてまた機構改革等を行っておりまして、ある程度の道筋はできたと思います。ただ、それは今の入込客数の現状で黒字化を目指しているところでございますので、さらに元の入込客に完全に回復しないまでも近づけるように、情報発信強化を、いま道の駅の役員等と一緒に進めているところでございます。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

いつも言っているんですけど、道の駅、本当に車で走っていて、ちょっと寄ろうか、というのが道の駅の発想だったと思います。よその道の駅もどんどんできていきますけど、結局ですね、物産館を目的としてつくりあげているわけですよ。大きな駐車場を造ったり、そこら辺の農産物、全部集めて。だからどうしてもお客さん多いんですね。

だから豊前の道の駅は、どうしても最初がスタートが道の駅の発想でできたから、そういうふうになったのかなと思いますし、高速道路ができたのは仕方ないんですし、現状は高速道路を潰すわけにはいかないですし、どうやって新商品を開発していくか、どうやったら入込客を増やしていけるのか、それを本当に真剣に考えてやっているとは思いますが、どういう政策をやっているんですかね。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

特産品の開発につきましては、昨年の機構改革から新しい部署ができて、積極的に取り組んでいるところでございます。

特に、加速化交付金で調査費をいただきましたので、今年度、ブランド戦略をいま作成中でございます。その作成をすると、国からの優遇措置等が一般の事業者が受けられるようになります。そして30年度からは、それに伴って、また予算のほうで説明するんですけど、支援する新しい事業をと考えております。

道の駅自体は、オリジナル商品が数点ございます。唐辛子を使ったような製品、そういうのが結構好評ですので、今後オリジナルの特産品も道の駅独自で増やしていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

頑張っていたきたいと思います。

続いて、うみてらす豊前。できあがって、もう何年ですか、1年以上、2年ですかね。今の現状を、最初はもの珍しさもあったし、たくさんお客さん来ると思います。

飲食業というのは、この前テレビで見ていたら、東京の中でも、10店舗中、10年続くのが1店舗らしいんですよ。それぐらい、あの大都市の中でも競争の激しいものだということが知りまして、うみてらすは今2年ですが、今の現状は、経営状態はどうなんですか。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

うみてらす豊前につきましては、一昨年、28年6月にオープンいたしました。昨年度に比較して、29年度は来客・売上共に減少している状況でございます。

原因としては、やはりオープン当時の6月、7月に、大勢のお客さんが集まりまして、大量に売上も出たわけですが、それ以降、一定規模に落ち着いた状況で、現在推移をしております。

現状の利用状況といたしましては、直売所の四季旬海のほうでは、12月から2月までの3カ月間の売上では、昨年度を上回っている状況でございます。また、食堂の豊築丸については昨年度を下回っていますが、今年度、12月から浜焼き小屋のほうオープンいたしまして、施設全体としましては、この3カ月間は昨年度を上回ってきているような状

況でございます。昨年に引き続き、黒字決算等が見込めるような状況になっております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

今年度は黒字になるということですね。

(農林水産課長、頷く)

今後ですね、やっぱり何年間か継続しないと分からないでしょうけど、継続は力なりではないですけど、継続することが一番大変だと思いますので、せっかくできた、うみてらすですので、しっかりやっていただきたいなと思います。

続いて、古民家1軒改築しまして、古民家民泊が始まりました。現状はどういう利用方法、まだ月日が経ってないので、何回か使ったと思いますけど、現状を教えていただければ。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

お答えいたします。山内の古民家につきましては、昨年10月から使用開始をしております。地域のコミュニティ施設として活用が、現在まで14回、利用者が166名でございます。お試し居住として使用されたのが、3回、11名でございます。

その内容につきましては、一泊2日が2回と、7泊8日が1回になっております。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

どういった地方の方が泊まれたのか。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

やはりこの事業をやっているところが、まだ福岡県内少ないので、まずその事業に興味のある方。基本的に市外の方しか泊まれませんので、やはり豊前に興味のある、もしかしたら将来的に、豊前に住んでみてもいいのかなと、検討されている方。

それともう一つは、総合政策が実施しております、トライアルワーキングステイで来られた方が1組ございました。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

せっかくできて、高額のお金を使って改築しているわけですから、どんどんPRしていただきたいなと思っていますし、よく企業も、この春になると新入社員が入って企業研修なんかやっているところがあると思います。そういった企業に、3泊4日、1週間貸し出すとか、そういったPR方法はやろうとは思ってないですか。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

お答えいたします。今の運用規則では、基本的に宿泊者は市外の方に限定しております。市内の方が通常利用するのは全然問題ないんですが、宿泊に限りは市外の方に優先的にやっていこうということで、そういうふうに運用しております。以上です。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

企業研修だから、豊前市の企業というわけじゃないよ。だから大手の企業というか、中小企業で、新入社員が、5人、10人入りましたよと。それで4月から新人研修を行いますと。割と不便なところでやったりするんですね。1週間カンヅメにしてやったりとか。そういったことをやるつもりはないのかということです。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

失礼しました。そういう使い方を、まだ検討したことがございませんでしたので、企業誘致の担当とそういう使い方ができるのか、ちょっと研究させてもらいたいと思います。

また活用してもらったほうがありがたいので、そういうのも含めて、地域の方にもそういう説明でやっていきたいと思っています。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

続いて観光問題の中でも、いわゆる観光農園。都会の方が来て、ミカンをちぎったりとか、イチゴを摘んだりとか。いわゆる観光農園の観光の方法があると思いますけど、いま観光農園やっている所は何園か、ミカン園だけですかね。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

一般客等、常時受け入れているのは、2箇所ですね。山田の農場と、あと常時ではございませんが、ミカン園さんとか、イチゴ園さん等がいろいろ予約等により受入れを行っているところでございます。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

そういう既存のところは、もちろん頑張ってもらわなくてはいけないんですけど、耕作放棄地がどんどん増えてきている。この前、課長、打ち合せの中で、こういう観光農園もあるんだよと、野菜を作って取りに来てもらって、そういう観光客が入ってくるという紹介を受けましたが、そういったことは考えてないですか。

○議長 磯永優二君

農林水産課長、答弁。

○農林水産課長 中川裕次君

一般的な旅行のスタイルとして、食事をしたり有名な観光地を見るという旅行よりも、いろんなところに出向いて体験をしたいという方が、非常にいま増えていらっしゃいます。そういった部分からもですね、豊前市には農地がたくさんあり、いろんな農作物が、四季折々に生産されております。

そういったものを、観光の売り物のひとつとして今後進めていきたいというふうに考えています。そのためには、観光協会と1次産業がいろいろ密接に結び付きを持っていくことが必要だろうというふうに考えていますので、我々はその支援ができるように、今後努力していきたいというふうに考えております。

○議長 磯永優二君

平田精一議員。

○6番 平田精一君

いわゆる観光農園。農地の貸し出しあたりもしてもいいだろうし、オーナー制度を作って、大分県の山国町は米のオーナー制度をやっている所もあるそうです。そういったことによって、1年に1回から2回ぐらい遊びに来てくれれば、また顔見知りになってくるだろうし、大きな観光収入になるのではないかと考えていますので、ぜひ頑張ってくださいなと思っています。

最後に、確かに地方創生、きのうの質問の地方創生事業の中で、いわゆる、うみてらす豊前、いわゆる古民家民泊、そういうところに確かにお金掛けてきました。これを今から運営する上でのハード面はできました。さあスタートして、ソフト面がしっかりしていなかったら、失敗しました、じゃ話しにならないと思います。

そのソフト面をいかに今から作り上げていくのか、お客さんを引き寄せてくるのか。そ

れが観光協会の役目かなと思ってますんで、まず課長。

○議長 磯永優二君

観光物産課長、答弁。

○観光物産課長 大谷隆司君

そうなるように、コーディネートして支援していきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

そういった面で、もう最後になりますけど、市長、一言。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

古民家など、国のお金をいただきながら整備を進めているところでございます。まだまだこれでハードが整ったということではないと思います。

先ほど言われますように、観光農園など自然と親しみたい、また植物などの、また動物も含めて成長を支えながら、携わりながら地域と関わっていききたい、というニーズはたくさんございます。

また、私たち豊前市には、国の重要無形民俗文化財に指定された神楽をはじめとする、伝統的な芸能・文化がございます。また多くの歴史資料もありますし、そういう歴史遺産を生かしながらも含めて、ハードの整備というのは、まだまだこれから必要だろうと思っております。そういうハードの整備を進めながら、なおそれを活用していく、また地域として受け入れていただけるような、人材の育成という面も必要だろうと思っております。

そういう方々の知恵を借りながら、これでいいんだという我々の思い込みではなくて、まさに地元の地域の声を生かしながら、いや、もっとこんな果物、もっとこんな花をと。私たちは、やはりそういう意味でハードの整備というのは、もちろんですが、地域の声を聞きながら、ずばり言いまして、いま一番人が集まっております河津桜。あれは、行政が指導ではございません。静豊園を運営する秋山さん御一家が、本当に苦難の末、今しっかりと観光資源を育成していただきました。

こういう人たちを、やっぱり我々が支えていけるような、またそういう力をもっと大きく伸ばせるような豊前にしていかなければならないのではないかと思います。ソフト・ハード共ですね、しっかりと我々が情報を大きく耳を高く、強く大きくし、そしてその情報を生かせるように頑張っていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

平田議員。

○6番 平田精一君

もう、いよいよ春から新体制、部長制が始まりますし、春から新しい新年度が始まりますので、しっかり市民のために私どもも頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 磯永優二君

以上で、平田精一議員の一般質問を終わります。

ここで、議事運営上、暫時休憩をいたします。

なお、再開につきましては、放送にてお知らせいたします。

休憩 11時39分

再開 13時09分

○議長 磯永優二君

皆さん、こんにちは。休憩前に引き続き、会議を開きます。

一般質問を続行します。

平成豊明会の質問を続けます。

次に、黒江哲文議員。

○5番 黒江哲文君

それでは、平成豊明会三番手、市民目線がモットーの黒江哲文が一般質問を行いたいと思っております。

まず、質問の趣旨につきましては、大きくは1点であります。豊前市の課題解決への取り組みについて。小項目では2点、人口減と高齢者対策について。2点目、予算配分と経済の活性化について、をあげています。

きょうの質問では、豊前市の最大の課題、人口減・高齢者対策・経済の活性化を中心に、豊前市の予算配分の考え方など、この4点をキーワードに織り交ぜながら確認を、また提案をしていきたいというふうに思います。

まず、豊前市のもっとも力を入れている高齢者対策、生涯現役について質問をいたします。平成27年に作られた生涯現役のパンフレットがあります。そのパンフレットをもとに質問していきたいというふうに思います。

まず、パンフレットの見出しには、生涯現役社会とは、誰もが生涯にわたり、健やかで自立した生活を送ることができ、目的を持って生き生きと活動することができる。また、お互いに尊重し合い社会を支える一員として、社会で参加でき、長寿による豊かさを実感することができる。そんな社会を生涯現役社会と呼びます、と書かれております。

また市長のコメントの一部では、長く元気に幸せに過ごし、終活を迎える、このためにも健康増進策と、自立して自宅にこもらず地域で活動できる場を持つ施策が重要です、と

書かれているわけでございます。その施策としては、生涯現役プラン施策の体系ということで、3本の柱を掲げております。

一つ目が健康、二つ目が自立、三つ目が活動・社会参加というふうになっております。この3つを柱にたくさんの事業がぶら下がっております。私が気になるのが、このたくさんの事業に予算が付いていますが、目標数値、成果と事業の検証がとても見えづらいわけでありまして。その辺を確認していきたいと思っております。

やはり予算が付いた以上、各事業の目標数値をクリアすることが行政の責務であり、職員のやりがいにつながるのではないかとこのように思います。そのような観点から、質問いたします。

生涯現役の事業につきましては、生き生きと楽しく生涯を暮らすためには、この3本の柱がバランス良く整って本当の生涯現役社会が築かれることだと思います。その取り組みを確認していきませんが、まずは、予算配分の確認をいたします。このパンフレットの生涯現役事業に関する総額は幾らなのか、また3本の柱、この柱別の予算はいくらなのか、そのような予算の出し方はされていますか。その辺をお答えください。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

いま申されました分について、報告をさせていただきます。

まず、健康の柱につきましては、大体、年平均で、各年度でいくと1千万円前後で推移をしているところでございます。また自立については、2500万円前後、活動については、ちょっとこれはバラつきがございまして、600万円から1千万円ということで、全部で大体5千万円前後が予算措置ということでされております。

ただ、これにつきましては、配分ということではなくて、各課の積み上げでしておりますので、そういう各課の計画にのっとり予算を措置したところでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

そのような予算が組まれているということではありますが、まずは、一つ目の柱、健康について1点質問をいたします。

健康増進事業は、特別に豊前市も力を入れているかというふうに思います。その中でも特に力を入れているのが、先日市長もテレビに出られておりました、訪問型口腔ケア事業ということでもあります。この口腔ケア事業につきましても、市長も議会初日の冒頭では、また年齢層等も拡大していきながら事業を進めていきたい、という話しもあったわけでありまして。その事業について進捗状況を確認いたします。

まず4点ほど伺いますが、担当課長、4点聞いてくださいね。

まず1点目、この事業の目的は何か、そして今までどれだけの予算を投資してきたのか、そしてどのような成果が出たのか、そして計画どおりにいかなかった問題点、この4点をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

市民課長、答弁。

○市民課長 井上由美君

質問にお答えいたします。口腔ケア事業は、生涯現役社会づくりの主要施策であり、生涯を通じた切れ目のない口腔ケアを推進することにより、健康寿命の延伸を図り、健康長寿社会をつくることを目的としております。

平成27年度より開始いたしました在宅歯科訪問事業では、主に高齢者の口腔機能の維持や栄養改善を図りながら、生活の質を維持向上することを目標として事業を実施しております。

口腔ケア事業における費用額といたしましては、決算額で平成27年度在宅歯科訪問事業費、3518万1045円、その内に在宅歯科訪問情報ネットワークシステムの開発費として、2789万1972円が含まれておりまして、在宅歯科訪問にかかる経費といたしましては、728万9073円でございます。平成28年度は、在宅歯科訪問にかかる経費といたしまして、393万3341円ございました。また、平成29年度は、予算額でございますが、765万6千円を計上させていただいております。

実施した人数といたしましては、平成27年度、目標人数を100人に設定しておりましたけれども、実績といたしまして、61名。平成28年度は、目標40名に対し、実績は21名ございました。平成29年度は、現在実施中ではございますけれども、目標50名に対して28名の御参加をいただいております。事業開始から3年間で100名を超えたところとなっております。

事業の成果といたしましては、参加いただいた半数以上の方に、評価の客観的指標であります、舌圧や細菌数の改善が見られたこと、また飲み込みや栄養改善にも効果が見られたということがあげられております。

しかし、問題点といたしまして、各年度の事業目標人数に対して、達成がなされていないこと。またそれにより、データ分析に必要なデータの数が揃ってなかったために、口腔ケア事業のデータと医療介護データとの分析が、今までできてないことが課題となっております。分析につきましては、今期で必要数も集まってまいりましたので、大学等、専門機関に今後依頼していく予定でございます。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

分かりやすく説明をしていただきました。事業としては参加者が、実績が出たということではありますが、やはり問題点として、利用者が年度の目標に達していなかった、そして、データの分析が遅れた、とあがっているわけではありますが、その目標数に達していない原因があるかというふうに思います。その辺について、どこにあったのかお尋ねします。

○議長 磯永優二君

市民課長、答弁。

○市民課長 井上由美君

問題点の原因について、お答えしたいと思います。

実施人数の目標が達成できていない原因でございますけれども、在宅歯科訪問事業という事業は、御自宅に検査を行うお医者さんなどが数人で訪問して検査や指導を行っております。特に寒い時期には、ことしなどは特になんですけれども、インフルエンザが流行いたしまして、自宅の訪問を受け入れていただくことが難しいことや、また対象者の方が要介護・要支援の方を主に対象としておりますので、実施を予定しておりましたが、体調不良などで中止になってしまう場合が多々あったということがありまして、それが主な原因で実施数に達していないということでございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

そのような問題について原因ということがあるわけではありますが、やはりいま話しを聞きますとそういう时期的な問題とかもあったかと思えます。

その事業について、それに対する改善方法というのをしっかり立てるべきだというふうに思います。その改善の策は、どのようにお考えですか。

○議長 磯永優二君

市民課長、答弁。

○市民課長 井上由美君

解決についての取り組みでございますけれども、いま現在、まだ検証中でございます、今後3年間の実施の状況を検証しながら対象者の選定条件、訪問の時期など問題点のほうを精査しまして、専門職の方にアドバイスをいただきながら、目標達成に向けて改善してまいりたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

それでは、そのように改善策ということですので、数値をしっかり上げるように

お願いしたいというふうに思います。

もう1点ですね、この口腔ケアにつきまして予算を付ける際ですね、システムデータの活用が口腔ケア事業だけではなく、様々な増進事業へとデータにと、ビックデータにしていく、というふうに私は認識しております。その進捗状況につきまして、お尋ねします。

○議長、 磯永優二君

市民課長、答弁。

○市民課長 井上由美君

お答えいたします。在宅歯科訪問情報ネットワークシステムのデータは、在宅歯科訪問事業により検査を行ったデータの他に、医療のレセプト情報や介護の認定給付情報なども登録されております。このシステムの活用方法としましては、システムに蓄積された医療・介護データの分析により、住民の健康課題に適した健康づくりの事業を展開する、ということが目標でございましたけれども、いま現在、在宅歯科訪問事業の分析が主なものとなっております。全体の分析のほうは至っておりません。

今後、口腔ケアが病気の生活自立度などに与える影響を分析して、医療や介護、健康づくりのほうに生かしてまいりたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

市長、いま大体内容を聞かせてもらいましたけど、ビックデータにしていくということで予算付けた以上ですね、その成果を上げていただきたいというふうに思います。

この健康増進事業という一環につきましては、林田課長の担当が多いかと思えますけど、かなりの事業をこなしているなというふうに思う部分があります。この実績につきましては、やはり先ほどは3年間、100のデータが送れているということでありましたけれども、この辺については、必ず目標数値に達するように、そしてまた成果を出せるようお願いしたいというふうに思います。

また担当課のほうも、今回、暮らしの便利帳からサイネックスの健康長寿のですかね、まだ目を通してないんですけど、作るということで努力も、予算カットして頑張っているようであります。ぜひ成果をあげていただきたいというふうに思うところではありますが、私の気になる点といたしましては、やはり生涯現役といえ、この3本の柱ということになるわけであります。

やはりこの3本の柱、次の2番目の自立の部分であります。この自立の部分、働く場所、そして高齢者の就労支援、このようなことも重要ではないかというふうに思います。

そこで、その取り組みを確認したいと思えます。いま豊前市での生涯現役に向けた就労支援の取り組みの内容をお尋ねしたいというふうに思います。

○議長 磯永優二君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

私のほうから、シルバー人材センターについての補助の内容について、お答えしたいと思います。

高齢者の臨時的かつ短期的な就業、またはその他の簡易な業務にかかる就業、並びにその他の社会参加活動を推進することにより、高齢者の生きがいの充実と福祉の増進を図るとともに、活力ある地域社会づくりに寄与していただいています。市としては、運営補助として、960万円、いまシルバー人材センターのほうに補助をしています。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

この就労支援のところには、あとハローワークと地域職業訓練センターとありますが、その件についてはどうでしょうか。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

高齢者の雇用対策についてでございますが、本市においても少子高齢化に伴い、人口が減少し、労働力人口も減少している状況でございます。そのために、労働力供給を増やすことが本市にとって重要な課題であり、高齢者も有力な労働力と期待されています。

ハローワークの基準ですが、ハローワークにお尋ねしますと、ハローワークの求人が基本的には年齢不問であり、高齢者が求職することも可能であります。現在、ハローワークにお尋ねしますと、行橋公共職業安定所管内なんですけど、分類が55歳以上しかないんですけど、55歳以上の求人もかなりありますので、ハローワークの方も、ぜひ高齢者も求人をお願いします、ということでした。

それから、地域訓練センターの関係なんですけど、訓練センターには、一般的な資格取得等の事業がありますが、高齢者のための一般向けの講座といたしまして、華道とか表装、園芸、そういうような講座もありまして、高齢者の方がかなり利用している現状でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

この就労支援の枠ですね、いまシルバー人材センターにつきましては、960万円の予算ということでしたが、この就労支援の予算額は、先ほど柱でも言われておりまし

たが、この項目で分けると、どれくらい予算を使われているのか。また、この就労支援につきましては、どういう就労目標数値をお立てなのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

この中のハローワークには、特にうちのほうの予算は出しておりませんが、職業訓練センターには、約880万円の予算を出しております。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

高齢者の数値目標は定めておりませんが、高齢者もより多く働けるように、企業等にはお願いして、高齢者を雇用し、高齢者を雇用しますとハローワークのほうからも助成金もございますので、その辺も周知を徹底していきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

総合政策課長、目標数値とかないんですかね。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

いま担当課長のほうから御答弁申し上げたとおりなんですけれども、施策を進める上ではしっかりとした目標を立てるといのは重要かと認識しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

この目標数値、それではシルバー人材センターには960万円ということではありますが、事業提携、またはその他実績等はあるのかお尋ねします。

○議長 磯永優二君

健康長寿推進課長、答弁。

○健康長寿推進課長 林田冷子君

シルバー人材センターは、平成10年に設置され、22年からは豊前と上毛のシルバー人材センターと広域化されました。現在、400人の会員数がいらっしやいます。会員が少しずつ減っているという状況にはあると聞いております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

特別な事業連携というのがないのかなというところが認識であります。では、この職業訓練センターについて、就労に向けた実績等つなげた部分をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

訓練センターでは、様々な資格取得とか実力養成、パソコンの講座、それから例えばクレーンの講座とか、そういうものを行っており、いま訓練センターの中にもコンタクトセンターが入っておりますので、そういう方に、そこでパソコンの実習を身に付けた方が雇用するような機会も、今後生まれると期待しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

市長、ちょっとよく分かりませんが、働く場所とやりがい、生きがいには、この仕事というのが、やっぱりひとつ重要かと思うんですね。その辺の今まで取り組みが、数値的にはなかったのかというふうに思うわけであります。

商工課長、今度、企業合同就職説明会、2月25日に行われたということですが、その内容につきましては、とても好評だったと、参加者も多かった、というふうな実績を、きのうの質問でも聞かせていただきましたが、私は、この企業合同の説明会につきましては、よく調整してやったな、というところが私の印象であります。

しかし、全国的にも中小零細企業はとても厳しい状況です。前回の一般質問でも数値はお話しをしましたが、豊前市も同じ現状であります。各自治体もしっかりと商業者をサポートしないと、自治体の財源にも響くというような現状が訪れるのではないかとというふうに懸念しているようであります。

いま九州企業の帝国データバンクの調査でも、人手不足を一因として倒産した企業が増加したと調査結果でも出ています。原因は、職人の高齢化に対し減る一方で、若い世代が集まらない。このような数値が出ているようです。豊前市も、同じ現状があるのではないかとというふうに思います。

そこで市内零細企業も、例えばフルで雇用するのは難しいけど、少しの手伝いなら喜ばれる事業所もあるのではないかとというふうに思います。生涯現役、高齢者の仕事の場として、またいろんな、例えば農業の経験をした人が少しの農業体験の連携とかですね、また仕事としても、1日2時間とか、例えば週2～3日とか。こういったものであれば、シルバー人材センターと会議所等の連携をしてもいいんじゃないかとというふうにも思います。

今回の企業の説明会をさらに工夫したり、また、企業説明会でないにしても、そういうようなアイデアで生涯現役としての、また働く場と経済効果につながるような工夫もあるのではないかとこのように思います、商工課長、その辺はどうでしょう。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

今回の企業説明会は、特に年齢不問でございましたが、高齢者の方も若干参加しておられました。今後も、そういう説明会や企業訪問の折に、高齢者を積極的に採用するように、企業の方をお願いしたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひですね、工夫をしてということなんで、またもんで、良いアイデアがありましたら、そういう活用もあるのではないかとこのように思います。とにかく、数値設定というものは、予算が付いているんで数値設定というのを、何かしら参加人数とか、やっぱり設けるべきだということに思うんですね。その辺がないと、予算を立てても予算配分、カットの仕方というのが、曖昧なのではないかということ指摘しておきます。

次に、生涯現役で生き生きと活動するためには、柱の3番目ですね、活動・社会参加ということですが、この辺、趣味や特技を生かす場所、習い事や発表の場が重要だということに思います。

ボランティアは、さらに強化をするという豊前市の方向もあるようであります。この活動・社会参加、この事業も予算と事業、バランス、費用対効果が出しづらい事業なのではないかということに感じるところであります。

担当課でやはり一番多いのは、生涯学習課なのかなということに思います、この辺についての総予算など出して見ているのか、また事業ごとの目標設定はしっかり出しているのか、この辺の費用対効果をどのように見ているのか、ということをお尋ねしたいところではあるんですが、かなりの事業数があるかということに思います。中身はいいんですけど、その辺の考え方だけ、予算と考え方だけ、一言お願いします。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

お答えいたします。議員おっしゃいましたように、事業量としては、いろんな講座等を含めて、かなりのものがございます。それで予算的に一番大きく占めるのは、ハートピアぶぜん、それからヤルディぶぜんですね、そこの主催講座の講師謝礼等になります。

ただ全体としては、講座等はそんなに大きなお金はかかっておりませんが、こうした事業を実施することによって、やはり高齢者の方の生きがいがづくり、そしてこれを地域のために生かしていただくことにつなげる。特にその中にあります、学校ボランティアというところがありますけれども、ここについては、もう20年近く、書道ボランティアというグループの方が、毎週市内の各学校に行って書道の時間に先生の補助をしていただいている、というような授業もごございます。

こうした学びの中から、生きがいがづくり、そしてそれを地域の活性化につなげていただく。また、地域のそういう子どもたちのためにつなげていただく、そういうことで、効果が上がるようにということで期待をしております。以上です。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

この中身については気になる点はあると思いますが、事業数も多いし、やはり参加人数が揃わなくてはならないと思いますし、その参加が集まらないのか、また参加が集まっているから、また集まるにはどうするか、この辺を、またしっかりとさせていただきたいというふうに思いますが、これにつきましては、ちょっと今から提案と確認をしたいというふうに思います。

いま地方創生ということについて、定住促進、交流人口と言われていましたが、各自治体でも注目を集めているのが、関係人口ということでもあります。関係人口とは、文字通り、地域に携わってくれる人々のことですが、地域に住む、移住・定住でも短期的な交流でもなく、第3の道と言われていたようでもあります。

各自治体は、この地域により深く関わってくれる関係人口、これをどのようにつくり、進めていくかを模索しているようでもあります。この関係人口の考え方は、豊前市の生涯現役事業の確立に必要な不可欠ではないかというふうに思います。豊前市では、この関係人口の観点ではどのようにお考えなのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

現在、議員のほうからいま御指摘のごございました、関係人口という点では、ちょっとそういうような言葉というのを、私のほうも初めて耳にするような次第で、大変申し訳なく思っております。

現在豊前市におきましては、交流人口というところでは考えてきたところがございます。観光であったり、あるいは就業・通学・買い物等々ですね、豊前市に来ていただけるような方々というところについては、ある程度の目標をそれぞれの施策の中で定めながらやっ

てきたところでございますので、それをもう少し、関係人口というふうな、いま御案内をいただきましたので、しっかり勉強して今後の施策の中で活用できればと思っております。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

いま御質問の関係人口につきまして、私から補足させていただきたいと思っております。確かにいま課長が申しあげましたように、交流人口につきましては、これまで取り組んできたところでございますが、ほぼこれが行政用語的になったときに、きのうも申しましたが、観光人口。楽しみに来る、訪ねて楽しみに来る観光人口に、イコールに近くなってきております。

関係人口というのは、それ以外に豊前にかかわり合いを持つ人、例えばふるさと納税を納めてくれたりする人、もしくは、ふるさとではないけれども、豊前に働いたことがある、豊前を訪ねて来たことがある、豊前に知り合いがいる、ほんのちょっとしたかかわり合いを持つ人たちの人口を、関係人口と呼んでいるようでございます。

最近できた言葉で、まだ行政用語的には定着はしてない状況でございますので、定義そのものは、まだ確立してないと思っておりますが、少しでも豊前に関心を持ってくれる、かかわってくれる、そんな人たちを増やしたいというのは、私たちが交流人口を増やすという中にも、関係人口の部分がいま入っておりますので、そういう意味では、豊前をもっと良くしてもらうために、どのように取り組むのか。そういうところも含めて努力をしていきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

交流人口の観点で言えば、いま市長が言われたとおりかというふうに思います。国のほうも、交流人口はやっぱり根強く継続的にという考えが、やはり単発的な観光とか、経済という捉え方が多いようでありますので、やはり、地域に根強くするためには、関係人口という呼び方をされているようであります。

ここにつきましては、今回豊前市でも議案にあがっております、地域づくり協議会、私はその意味が、その関係人口をさすのではないかというふうに思っているところであります。

ここについて、私もすごく興味のある事業の一環ではないかというふうに思うわけですが、その辺を総合政策課長に答えていただきましたかったわけですが、ここについて予算を投じて、先ほども言いましたけれども、予算を投じて目標数値がなく、できた

かできないかも分かってない中で終わってしまう。この人間関係の、この今から地域づくり協議会につきましても、それなりのやっぱり目標数値、それがお金・売上と違うものかもしれない。目標数値を出していきながら、やはりやった以上集まる、それとも利用者が喜ぶか、満足度の数か、やっぱりこの辺の調査をしていくべきだというふうに思います。この地域づくり協議会の趣旨的な考えをお尋ねします。

○議長 磯永優二君

生涯学習課長、答弁。

○生涯学習課長 栗焼憲児君

地域づくり協議会につきましては、私のほうからお答えをさせていただきます。

今回、30年度の当初予算にも一部計上してございますけれども、生涯学習の推進基本計画の中で、公民館の活性化ということで、地域の課題を地域の皆さんにお話し、協議をいただいて、その地域課題解決のための地域づくり計画を作ってください。そしてその地域づくり計画に従って一定の財政的な支援をする、ということで考えてございます。

当面、各公民館を拠点にいたしまして、そういう地域づくり協議会をつくっていただきまして、行政と地域が一緒になって、総合計画の中にもございます市民協働の取り組みとして地域課題の取りまとめを、まず行いたいというふうな考え方でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひとも、期待をするところであります。前回、指定管理の部分も、やっぱり現場との折り合い、やっぱりそのニーズが合わないとマッチングできないかというふうに思いますが、やはりその辺は、地域のリーダーづくりから、そしてまた、現場に入って一緒に考えていくという姿勢で、しっかりと成果を出していただきたいというふうに思うところであります。

このようなことについて、各担当課、担当課の問題じゃなく、いろんな担当課の事業が生涯現役に携わっているわけでありまして。

例えば、商工課長、いま商店街でも講演会等をやっていますよね、今泉講師、市長も見えられて講演を聞かれているわけでありまして、この中でもいろんな習い事をする人たちが、例えば竹に習字や句を書いて街に飾って、それをアートにしながら見ながら楽しむとかですね、この辺も生涯学習の一環のそういう習いの場ですね、そういうところを、いろんなまちづくりのPRにつなげることも、また発表の場として習い事のやりがいがあるのではないかとこのように思う部分もあります。

そのような連携もあるのではないかとと思いますが、その辺の考えを商工課長。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

いま黒江議員がおっしゃったように、講師の方を呼んで、いろいろなアイデアを出して、皆さん、商店街の方といろいろ研修会をしています。

そういうアイデアを豊前市にも生かせるではないかと思しますので、関係課、商工会議所等で十分協議して前向きに進めていきたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひそういう、やはり勉強した部分は、どこの課とつなげたら、こうなるんじゃないかという視野で、全庁で行ってもらいたいというふうに思います。

もう1点、提案であります、いま大分県中津市ですね、なかつ・こどもいきいきプレイルームというものが、12月にオープンしたようであります。この内容は、丸食さんと提携して、丸食の3階に子どもの遊び場ルームができていますね、これは丸食さんが提供したということですが、その一角に子どもの遊び場、無料で土・日もたくさん人が集まって賑わっている。その中でお客さんも増えるという、こういう提携であります。このような提携の部分、御存知ですか、どうでしょうか。

○議長 磯永優二君

福祉課長、答弁。

○福祉課長 則行修子君

お答えをいたします。中津市のプレイルームは、おっしゃるとおりに丸食で雨天とかもきちっと遊べるようにということで開園した、ということで聞いております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

凄い、素晴らしいなと思ったんですね。豊前の丸食もそうですけど、やっぱり厳しいから出て行かないでくれと言われる話しも聞いたことがありますけど、やっぱりそのような提携等をですね、また、この生涯現役については、これは子どもさんですけど、上学年・低学年で分かれて遊ぶブースが違うというようなかたちであるわけですが、市外の方も遊びに来られるわけですね。

こういう情報を福祉課も知っているんだったら、こういうものがありますよという、共有することが重要ではないかというふうに思います。

その中でそういう高齢者、またそういう憩いの場を作って、また丸食さんで買い物したり、商店街で買い物するような循環的な仕組みをつくる必要があるというふうに思いま

すが、その辺の考え方をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

いま議員のほうから御紹介のありました、丸食さん、中津市の例を見ますと、やはり商店街は商店街、スーパーならスーパーさんで課題がある。それと、あと子どもさんの世帯等にすれば、子どもさんの遊び場の確保、あるいはあと交流の場の確保というふうな、いろいろな視点があろうかと思えます。

そういったものを、一つの中に、一つする事業等を実施することで解決して良い方向に行く、そして地域が活性化すると、大変参考になる事例かと思っておりますので、豊前市においても、そういった地域、平公園であったりの活用等、検討できるのではないかと認識しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

そういうふうなアイデアがあるんですけど、やはり企画が10あって1成功するかどうかかもしれないけど、そういうふうに積極的にやるという気持ちを持っていただきたいというふうに思います。

この生涯現役の質問につきましては、締めとさせていただきますが、やはり予算と目標数値の観点から何が言いたいかということについては、結論といたしましては、成功か失敗かであるかというふうに思います。その他の事業についても、大半は同じかというふうに思いますが、目標数値をクリアできなければ失敗、だから次に何をすることが重要かというふうに思います。

できない理由で終われば自己満足だと思いますし、また議会も何もチェックもしてないじゃないか、という結論になるわけであります。特に、この生涯現役社会の事業は、いくら良い事業をしても人が集まらなくては、良い結果は残せないのではないかと、いうふうに思うわけであります。そして、良い、悪いを行政が決めるのではなく、市民、利用者が決めるべきだというふうに思います。

ぜひとも執行部の皆様方には、工夫を凝らす目標数値と予算をしっかりと出す、そして成果を検証する、ということをご心掛けてしていただきたいというお願いを込めて、この質問を終わります。

次に、人口減、そして地域経済の活性化も含めて質問していきたいと思えます。

まずは人口減については、全国でも本格的な人口減少社会を迎え、多くの自治体が総合戦略をはじめ、人口対策に取り組んでいます。豊前市も人口減少の推移データをもとに、

総合戦略と地方創生の補助金活用など、様々な施策に取り組んだわけではありますが、事業を通じ人口がどのように変化をしたのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

事業の取り組みが、27年12月に総合戦略のほうを策定しまして、実際の事業といたしましては、28年度から事業実施に至っております。

そのときの住基のデータで推移を御報告いたしますと、27年10月時点では、2万6616人で、事業を取りかかった年、すみません、ちょっと途中が抜けていて大変申しわけないんですけども、28年の10月末現在では2万6387人で、ちょっと節目になりますので、29年の12月末で2万6032人で、現在平成30年2月末時点では、2万6千人を切りまして、2万5952人ということで、やはり取り掛かって2年ですけども、500人程度が減少しているというところです。

大体この5年間ぐらい、250人から300人減で推移をしておりますので、人口の減少というところは、まだ収まっているというような状況ではないというふうに認識しております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

市長、私の質問は、事業を通じてどれだけ変化があったか。この目標数値、例えば人口減は社会現象だから見にくいと言え、もう話しは終わりですよ、そこについて、やはり地方創生の実績・結果を人口か経済効果の実績で見るといふふうに思うわけでありませぬ。

そこで豊前市の過去5年の人口推移と近隣京築地区、また中津の人口推移を比較してどんな状態か、この辺をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

すみません。時間を要しております、大変申しわけございません。

いま手元にデータがあるもので御説明をいたしますけれども、すみません、先ほどはちょっと住基の人口でということで、豊前市の人口の推移について御報告申し上げたんですけども、いま近隣のということでの御質問で、私がいま手元にあるデータが、国勢調査のデータになりますけれどもよろしいですか。

(黒江議員「いいです。申し訳ないです」の声あり)

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

これは一応私が揃えたデータ、数値については不具合があったら悪いんで、ちょっとお聞きしようと思ったんですが、これ豊前市・吉富町・上毛町・築上町・行橋市・荻田町・みやこ町・中津市というデータがあるわけでありまして。

まず、この近隣で豊前市が5年間で、これが25年から30年までですね、1397名、これは一番減っているんですよ、そして次に、みやこ町が1352名ということで、次に築上町が1251名ということが5年間の推移であります。そして、この1年間の推移でみますと、やはり豊前市が一番減っている、208名ですね、そして次にみやこ町が205名、そして築上町が167名という数値になっています。

それで吉富町は39名増えているんですよ、上毛町は16名の減と、行橋市は351名の増ですね、荻田も529名の増というふうになっています。中津は41名の減となっていますが、これは中心外のところが減ったということで、中心は増えているという現状であります。このような数値の分析等をやっているのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

細かい今、分析結果がということで、御説明はちょっとできかねますけれども、総合戦略を策定する段階で、そういう人口動態、自然減は当然ですけれども、社会動態、転入・転出の状況と、年齢別のそういった人口の動態というところでは、分析ができております。

それとあと、各施策ごと細かにということではございませんけれども、現在定住促進として行っております空き家バンクであったり、定住促進補助金の利用によって、市外から豊前市のほうに転入して来た方がどれくらいあるかというようなところについては、統計等を取ってございます。

この場をお借りして御報告申し上げますと、22年以降、定住促進補助金、空き家バンクで豊前市のほうに、市外から入って来ていただいた方は、現在100名を超えているという状況ですので、ちょっと総合戦略とはズレますけれども、一定の成果を上げてあるものもある、ということで認識をしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひ答弁は、端的にお願いしたいと思います。

それでは、もう一点質問しますけど、定住促進する上で、豊前市に住んだ場合、近隣と

比較して、例えば公共料金の差額がどれだけあるのか、生活費の差額がどれだけあるのか。

また世帯で換算すると、1世帯あたり、また子育て世代、子どものいない世帯、また一人での生活、これが近隣と比較して差がどうなのか、そして豊前市内の様々な生活水準、試算したときにどうなのか、このような計算をされているのかお尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

どういった施策があるか、施策の内容はどうかというふうな比較・検討は、したところがございます。それと過去において、そういった手数料等の統計をしたというところは、聞いておりますけれども、現在そういった総合的な分析・統計ができてはおりません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ということは、そういう数字をもとにどういうふうに見ていくのかということですが、その辺を確認していきたいと思います。

例えば、近隣のこの推移を見ていきながら思うんですが、行橋市はなぜ増えたのか。いろんな条件があるかと思いますが、一つの理由としては、やはり北九州、また小倉南区に比べて、地代・アパート代が安価ではないか、そういうような理由もひとつあるのでは、というふうにあったわけですが、例えば豊前市は近隣と比べて比較してみて、地代・アパート代はどうか。この辺を調査したのかお尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

いま議員から御指摘のあった項目については、調査ができてございません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

この辺も調査のひとつではないかというふうに思います。これはもう民間のことだからという問題ではないかなというふうに思います。

そして次に、固定資産税、この近隣と比べての比較をお願いします。

○議長 磯永優二君

税務課長、答弁。

○税務課長 武道和宏君

お答えいたします。県下の固定資産税の税率を見ますと、1.6%が1自治体、1.5%

が町村も含めまして7自治体、それ以外が1.4%というふうになっておりますし、この京築管内を見る限りは、うちと行橋市が税率が1.5%、それ以外が1.4%となっております。

ただ固定資産税とは別に、中には都市計画税を設定されている自治体もあるようでありますので、その辺は、また細かくちょっと調査をしてみないと、そこはちょっと分からないというところであります。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ということで、近隣につきましても、この辺も少し高いということですよ。となりますと、例えば豊前市の現状を振り返ってみますと、地代、これは三楽住宅、財産としてあるわけではありますが、これの今、進捗状況はどんな感じでしょうか。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

昨年から、ちょっと動きが止まっております。売れ残っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

それでは、その理由は何を考えられるんですか。近隣より高いんですか、どうなんですか。それとも立地の問題ですか。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

そうですね、民業圧迫にならないようにということで、最初設定するときは、民間よりも少し高めに設定したのは現状でございます。

ただ、いま問い合わせはあるんですが、中々契約までには至っていないので、複数区画でどうだろうかということでは、御案内はしております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

やっぱり道も狭いし、入りづらいという、いろんな立地があるかもしれませんが、やはり売れるように工夫をするということが必要ではないかというふうに思います。

次にお尋ねしたいのが、豊前市の水道料金の現状は近隣と比べてどうでしょうか、お尋

ねします。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 小倉良一君

お答えをさせていただきます。県内の水道料金で比較しますと、県内の市町村で上位から4番目ということで、水道料金が、これは20立法メートルあたりの料金で比較した単価で、県内で4番ということになっております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

この辺も高いほうということではありますが、やはり水道料金はですね、伊良原ダム completion後、まだ料金が決定していないというふうに聞いております。また監査委員からも、水道事業会計がとても厳しい状態、今後一般会計を圧迫していく可能性もある、と懸念した話しも聞きました。

伊良原ダムの企業団の価格によっては、これは一般水道料の値上げになるということも考えられるのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 小倉良一君

議員おっしゃいますように、伊良原ダムからの受水が始まりますと、受水費のアップが予測されております。

これに伴いまして、水道料金のアップというようなことも出てくるかと思っておりますけれども、当課としましては、まず収益面につきましては、し尿処理施設の前処理施設の希釈水の供給や、新たな水道利用者の確保等の収益面をもっと増やしていく対策と、支出面につきましては、さらなる経費の削減に取り組みながら、将来的には、施設の共同化、近隣の市町と施設の共同化・事業の一本化・統合なども視野に入れた広域化を推進しながら、経費の削減を図って持続可能な水道事業の経営に努めていきたいと考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひそのようなことに敏感にならないように工夫を凝らしていただきたいと、その辺の策を練ることをお願いしたいわけではありますが、これ今、135円とかいう話がありますが、例えば、10円ごと上がったときには、どれだけ上がってくるかということは試算していますか。

○議長 磯永優二君

上下水道課長、答弁。

○上下水道課長 小倉良一君

お答えさせていただきます。伊良原ダムから受水が始まりますと、1日あたり6400立法メートルの責任水量の水がきます。年間にしますと、233万6000立法メートルになります。これが1年間で単価が10円上がりますと、2336万円ずつ、10円ごとに上がっていくというような金額になってきます。

135円で申しますと、受水費が税抜で3億1536万円になります。それから比較して10円ごとに2336万円ずつ上がっていくような金額になろうかと思えます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

そのような現状かというふうに思います。これは事業会計のほうがスムーズにいけば、それを補えるかもしれないですけど、これがまた厳しい状態があれば、この額をどうしていくかというふうに、最終的には一般会計から出ると、また市民に負担がかかるという現状になるかと思えますので、ぜひ策を練ってお願いしたいというふうに思います。

ということで、この辺、豊前市に住もうかと考えたときに、本当に高いのか、さほど高くないのか、この辺が分からないと打つ手も見えないかというふうに思います。このようないま質問をしてみたわけではありますが、試算をするべきなのか、それは行政としてすべきではないのか、その辺の考え方をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

いま議員さんのほうから、人口が増えている所もあるよ、というふうなお知らせをいただきました。

ただ結局、どれか一つ、これ一つが勝っているからここに住もうというものでは、当然ないと思いますので、総合的にやはり判断をされて、自分の定住する場所、住む場所というのを決められていると思います。

全ての分野について、そういう情報収集・分析・比較が必要かというものではないかと思えますけれども、やはり最低限、生活に必要なもの、世代によって違うと思えますけれども、そういった情報の収集・分析・比較・検証というのは、当然必要かと思っておりますので、しっかりとその辺、近隣はもとより成果を上げている自治体の事例等をしっかり情報収集していきたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

その辺を全てする必要がないということであれば、こういった質問に答えられないでしょうね。私はするべきだというふうに思います。そのような現状で豊前市に住むか、住まないか、近隣の住民は、シビアに考えているのではないかと。

豊前に縁のある方は、また縁があるわけでありますが、やはり上がれば自然と払わないと悪いというような考え方では、その辺は工夫が必要かというふうに思います。そのような結果が近隣との人口の推移にあらわれているかもしれないということは、想定するべきだというふうに考えています。

ここで気になるのが、そのような現状の中で、このごみ料金のアップ。これはとても私は理解できません。近隣との比較をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

近隣の状況、現在の状況とちょっと前になりますけれども、よろしいですか。

(黒江議員、頷く)

苅田町から説明させていただきます。家庭系、10キログラムが30円、事業系が10キログラム100円。行橋市・みやこ町が、家庭系が10キログラム62円、事業系が10キログラム175円。築上町のほうが、家庭系が10キログラム100円、事業系が同じく10キログラム100円。中津市が、家庭系が10キログラム64円、事業系が10キログラム108円になっております。

(黒江議員「豊前市は」の声あり)

すみません。豊前市は29年度中でございますけれども、ちょっと細かく分かれておりますけれども、草木等にもありまして、草木等は通常10キログラムにつき100円で、チップになったものを持って帰ると50円でやっております。それから、家庭からの一時的な大量ごみ、ごみの回収に出さなくて、自分で持って行ったときですけれども、これは10キログラムにつき60円、それから事業活動に伴い生じた一般廃棄物については、10キログラムにつき100円。それから猫の死体とかいろいろありますけれども、それは1体につき400円というふうで取っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

それが、豊前市の分が、今度100円が200円に値上がりしたということですよ。苅田は、これは175円と書いていますけど、さっき175円と言いましたか。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

すみません。間違えました。175円でございます。訂正させていただきます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

これが近隣と比較しまして、豊前市が今度200円に4月から変わるということであり
ます。私は、これは近隣と合わせるといふふうな認識であったわけではありますが、近隣よ
り高くなっている、しかもかなり高いということでもあります。

なぜ、ここまで高くしなければいけなかったのか、施設組合の運営が厳しかったのか、
その理由をお尋ねします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

組合の事務局のほうで、現在のごみの処理経費というのをを出しております、年間に換
算して割り戻したものでございますけれども、2万1千円から1万9900円ぐらいで、
ごみの処理手数料が掛かっているということで、それを10キログラムに割り戻して20
0円というものを出したと聞いております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

そういうふうに変算したということではありますが、組合の事情はまた組合議会等である
かというふうに思いますが、これは、また豊前市内の事業所に経営に対して影響すること
は、豊前市としても考えるべきだというふうに思います。もう、市内の事業所もいっぱい
いっぱい経営している所も、数多くあるわけでもあります。

この値上げをすることによって、市内の事業所に総額でどれだけの影響があるのか、担
当課長も含めてですけれども、商工課長等も考えたことあるのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

誠に申し訳ない話なんですけれども、100円が200円という数字に、最初まどわさ
れてしまいまして、それぐらい大きな影響があるとは、感じておりませんでした。いろい
ろ課長会でも話しをする中で、大変手数料に占める割合が大きいということに気が付きま

して、影響について話をしたところでございます。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

処理料が現在の100円から200円に改正になると、事業所の運営に大きな影響を与えることは十分承知しており、事業所も大変だと思いますが、特に事業所のほうには、この件は説明しておりません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

それでは前回も話をしましたが、会議所よりも、このごみについては要望書が出ていたわけでありまして。一定期間の増加分の免除や助成、または段階的な導入に向けて配慮していただきたい、という要望が出ていたわけでありまして。

この段階的な導入は考えなかったのかというふうに聞きたいわけでありまして、ここにつきましては、要望から1年待ったという経緯もあります。この段階的な考えはなかったのか、もしくは1年間、期間があったわけでありまして、業者への周知方法・説明等はどうにしたのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

まずは商工会議所のほうから、昨年の29年の1月24日に、一般廃棄物の処理価格について、ということで申し入れをいただいております。それについては、清掃施設組合の担当課長会議でも、この料金の改定について話し合いをしております。

豊前市の状況として、黒江議員が言われましたように、清掃センターへ支払う手数料がかなりウェイトを占めている会社も多いという話がございますが、それが2倍になることは負担が多いのではないかと、それから大変失礼な話になるかと思っておりますけれども、ごみの少ない事業所については、地域のごみステーションに出すのではないかとかですね、いろんな話が出たところでございます。

一番悪い話ですけれども、また先ほど近隣の市町村の値段も説明させていただきましたけれども、その中で料金の安い所に流れていくのではないかとかですね、いろんな話が出たところでございますが、豊前市・吉富町・上毛町で、1市2町で運営させていただいておりますけれども、各市町村の状況が違うということでありまして、結論には至ってないということになっております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

事業所の負担の総額というのは、考えられてないんですか。試算してないんですかね。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

個別にどちらの会社の方がどれくらい出しているという調査は、私のほうではやっておりません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

豊前市の事業所のことを考えたら、考えるべきじゃないかなというふうに思うんですよね。じゃあ例えば、これ値上がりしたとき、金額は倍になるわけですよ。これが5千円のところが1万円になるのと、いま10万円のところが20万円になる。じゃ50万円の所はどうするんかというふうになったら、どれだけ民間圧迫するか。ここについての、豊前市単独での助成等、考え方はないんでしょうか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

現在のところ、特に助成等は考えておりません。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

どれだけの総額が、被害がかかるか見てもいないで、考えてないというよりも、やっぱりこの現状というのが圧迫して苦しいかというのは調査するべきじゃないんですかね。どうなんですか。

○議長 磯永優二君

商工課長、答弁。

○商工課長 福丸和弘君

生活環境課と連携して、企業に調査をかけていきたいと思います。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひですね、しっかり調査をした上で、負担で本当に経営が厳しくなるようなことは、

避けていただきたいというふうに思います。中には、値段が上がったことが理由で、またお客さんへの商品が上がるとか。

先ほど一般の所に出すかもしれない、というふうにあったわけではありますが、そのようなことがないように、どう対策するのか。もしくは基本的には、豊前市で回収したものは豊前市の収集で、しっかり処理するという決まりがあるかと思いますが、その辺も、今までは近隣から持って来ていた、今度豊前市が上がったから、よそに持って行く。そんな考え方でいいんですかね。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

豊前市で出たごみは、豊前市が責任を持って焼却する、処分するということになっております。豊前市外2町清掃施設組合は、吉富・上毛とも一緒に連携してやっておりますので、この地域のごみは、清掃センターで処理するということが基本になってくるかと思えます。

それで、先ほど言いましたように、豊前市が安いので、よそから持ってこられとったとか、逆に今度、豊前市が高くなるとるのでよそに持って行くとかいうことがないようにもしたいと思えますし、それから地域の地域のステーションに、ごみが出されるというのも問題かと思えますので、その辺も追跡調査をしたいと考えております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ぜひですね、お願いしたいと思えます。これ事業系のごみというふうに聞いておりましたが、これシルバーとかも料金が値上がりするのか。イコール、シルバーに頼んだら民間のほうが、ごみを倍に取られる可能性があるのか、その辺はどのようにお考えなのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

生活環境課長、答弁。

○生活環境課長 清原光君

事業系のごみの中には、シルバー人材センターさんも含まれております。豊前市の一般廃棄物収集の許可も出しているところがございますけれども、家庭系のごみとどこで差をつけるのかということになろうかと思えます。

家庭系のごみは60円で値上げはしておりません。一般家庭の方が自分で持って行けば60円で済むかと思えますけれども、その中で樹木・草等については、個人が持って行っても、この値上がりに、100円と200円になろうかと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

ということは、やはり一般の方にも、何らかの影響を及ぼすかもしれないということですよ。

ということで、今回近隣との比較ということを数点させていただきました。やはり、この辺が全ての、住むか、住まないかという材料とは思いませんけど、やはりこの辺を十分に調査する必要があるのかなというふうに思うところであります。

最後の締めの質問とさせていただきますが、予算配分についてということであります。

豊前市の課題解決に対応できる、メリハリ予算となっているのか、この辺が気になるわけであります。かといって課長たちも試行錯誤しているとおおり、豊前市の財源は厳しく、各課の事業費も削られていることだというふうに思います。何をするにしても、予算が厳しい状態ではないかという、そういう現実かと思えます。

しかし、どこかに特化して、どこかを削る。そのようにしないと予算配分ができないのではないか。また活性化しようというふうにしても、まちづくりは厳しいのではないか、というふうに推測するわけであります。

私は、まず大卒のこの予算、各課で絞って、これ行政の通常の予算の出し方と違うかと思いますが、先ほどの生涯現役社会にどれだけの予算を投じるか、そして定住促進にどれだけするのか、子育てや若者の世帯に予算をどれだけするのか、そして地域活性化、また経済の活性化、そのような項目別に予算組みをシミュレーションとしてしながら、そして事業の検証をしていくべきではないかというふうに思うんですが、財務課長、どのようにお考えですか。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

そうですね、議員の提案ということで受け止めたいと思います。

まず、今の予算組みの分類の仕方ですが、行政目的によって、例えば予算書で言う議会費・総務費・民生費みたいに、こういうのが目的別で、予算審議等で、こういうことは重要な意義を持っているというふうに言われております。

また性質別、人件費・物件費・扶助費みたいにですね、性質別でも分類ということで、この2点で私どもも予算編成をしておったことでもありますので、そういう視点も入れられるかどうかも含めてもってしたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

いま事業別という話しをしたんですけど、そしたらそれにぶら下がった事業があるわけですね、先ほど説明しました。そしたら、そこに対する費用対効果、それが全てのお金との換算ではないんですけど、目標数値、例えば満足度の数値、その辺の調査をしなくては、例えば予算を大幅にカットする、何%カットするというふうになったときに、正しいシミュレーションができるんですかというところが、私が気になる点であります。

そのような結果どうなるのか、というふうになりますと、2万円の補助金のところ、3%の600円カット、このようなことをいう現状になるんじゃないかと思うんですけど、そのようなことがあったのか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

予算編成について、経常収支が悪化したことから全般的に事業費の3%減を目標に、とすることで示したところでございます。私どもの説明が行き届かなくて、ある担当のところ、団体にそういう3%カットということで説明をしたということでありますので、それは確認ができましたので、この場を借りてお詫びしたいと思っております。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

やはりその辺がそのようなことが出てくると思うんですよね。600円カットして、そこが頑張っている事業か。ならば例えば補助金は、豊前市はかなり多く出していますよね。この2万円の補助金、そして中には10万円、30万円、この基準とか設けているんですか、お尋ねします。

○議長 磯永優二君

財務課長、答弁。

○財務課長 諫山喜幸君

基準というのは中々、過去の経緯もあって、できてないのが現状でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

やはりですね、例えば2万円で足りない所、努力している所、10万円でも努力している所。例えば20万円、30万円でこの予算どう使おうかと考えている所、やはりこの辺をしっかりと、私は調査するべきだというふうに思っております。

かといって、私は補助金を絞れと言っているわけではありません。やっぱりお金は、基

本的に行政だけが使うんじゃない、現場も一緒に使っていこうという考えの中、市民公募型という提案をしているわけであります。

そういう中で、しっかりとした補助金の調査をすることが必要ではないかというふうに思う基準の中で、今回の質問をさせていただきました。そのためにも、豊前市がどこの事業に特化をするか、どこの事業に予算を絞るかなど、しっかり方向性をまず示すべきだというふうに思います。

そして、市民の大切な税金です。職員は各事業の目標数値をきっちり出して、費用対効果の検証をしていただきたいというふうに思います。どうか豊前市の発展に向けて結果を出していただきますよう思いを込めて、質問としたいところでありますが、時間ありますので、最後に市長、一言お願いします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

本当に細かいとこまで目配りの届いた質問をいただきました。気付かないところも、たくさん気付かしていただきました。

ただ、さっき出ましたように3%カットしなければという、財政面での窮状でございます。そういうときに、やはり見直しをすべきところはすべきではないかと。

先ほどのごみの問題でも、事業系という中には、国や県の膨大な量の草木が入っております。ああいうところの分まで含めて100円でやってきたわけでございます。やはりああいうところの、確か草木でいえば、相当のパーセントが県の河川から出てくる草木だと思いますし、国の分も含めて相当量のをあそこで燃やし、さらにそこから出る草木灰については、我々の貴重な埋め立て場所、上毛町さんに大変お世話になっているところを潰しているのに加わっているところでございます。適正な料金をいただきたいと、これも我々が苦慮しながら、呻吟しながら選んだ道でございます。組合長として、そういう方向を取らせていただいたところでございます。

ただ、私はこれが上がることによって、確かに大変苦しい事業所の方もおられると思います。それをサポートする面でも、お金がないというのが現状でございます。

そういう意味では、会議所の皆さんを先頭に、例えば、さんまるいちまる運動、飲食店で最初の30分は、出された料理をしっかり食べよう、そして後は談話をして懇談をして、最後の10分も食べ残さずに食べていこう、飲んでしまおう、そういう習慣を地域の中で根付かせていこうという運動を始めていただきました。

こういう力こそ、減量につながっていくんじゃないかと、やはり値上げがマイナス部分を皆さんが吸収していただいて、そういうプラスの面に、それから何であんなところにまで、ある意味では安い価格でやってきたんだろう。そういうところも見直して、しっかり

財政を立て直していく。

これがやはり我々としては選ぶ選択の道だというふうに思っておりますし、きょう、いただきました御提案、たくさんございますので、整理をして実行に移していく、そういう思いでございます。以上でございます。

○議長 磯永優二君

黒江議員。

○5番 黒江哲文君

私は、きょうの質問を通じて皆さん方にその事情と現状ということを踏まえた上で、ということをお伝えしたいということでございましたが、今の市長の答弁でありますと、私はこういう事情でということでありますけど、そういう事情は事情であったとしても、この調査をした上でしなくては、人口減の対応をどうするのかという見方もできない。

ただ先ほど言ったように水道料金が上がるから、上がりますと言われたら、市民は上げられた分で払わないと悪いんですよ。それで苦しかったら、どっか出るかとなるわけなんですけど、その調査をした上でも踏まえてしないと、自分たちの現状の状況だけを伝えたとしても、いろんなものがかみ合って生活になっているんですよ、ということをお伝えしたかったわけでありまして。

それをそのように捉えられるのであれば、私の質問は、きょうは無駄だったのかなというふうに感じるころでありますけど、そうならないように、しっかりお願いしたいと思います。

以上で質問終わります。

○議長 磯永優二君

黒江哲文議員の質問が終わりました。

以上で、平成豊明会の一般質問を終了いたします。

これより、本日の一般質問に関する関連質問に入ります。

なお関連質問は、答弁を入れて10分以内です。

関連質問はありませんか。

古川議員。

○10番 古川哲也君

午前中の平田議員の行政サービスの向上と広域連携について、という関連質問をさせていただきます。

午前中、定住自立圏のことを、るる平田議員が説明していただきました。平成22年から定住自立圏が始まり、豊後高田市・宇佐市・中津市・豊前市・上毛町・築上町、この6地方行政が連携して定住自立圏を組んでいます。

一番主なものが、バスの運営と中津市民病院の再生ということでありました。我々もそ

のときに、中津市民病院は、絶対存続させなならん病院だと思い、その定住自立圏に参加したわけでありますが、今、バスを豊前市から中津市民病院まで毎日4往復ですか、走らせて、市民からだいぶ好評を得て、午前中の説明では、毎年微増ですが利用人数が増えている、というお答えをいただきました。

そこで、その6地方公共団体が入っていますが、そのど真ん中に吉富町という町がございます。吉富町が定住自立圏にまだ参加してないわけでありまして、その町はその町の事情があるでしょう。しかしですね、そこにバスが走ってですね、住民・市民がそこを利用できるんですよ。

それに対して、吉富町さんに、こうして利用しているんだから、やっぱり義務と責任が付くんじゃないかということ吉富町に進言して、一緒に定住圏をしましょう、というふうなお話しをされたことがありますか。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

吉富町さんのほうは、加入してないというところで、中心市が中津市さんになっておりますので、ひとは事務局レベルで毎年吉富町さんのほうには呼び掛け、御相談をしております。

それと、昨年度、28年度につきましては、市長さんのほうが、直接町長さんのほうと意見交換を行ったと。その首長の会議の中でも、今後も呼び掛けを続けてくれというふうなところで話しが出ておりますので、今後も継続して呼び掛けがされていくものと理解をしております。

○議長 磯永優二君

古川議員。

○10番 古川哲也君

やっぱり利用していく、それなりの責任が生まれるかと思えます。まず、入っていただけてないんならば、例えば今まで入ってないんだから、お金を全然払ってないですよ。だから幾らかその定住圏にお金を出していただく。そうすれば、平等性・公平性が保たれるかと思えますが、その点については、どういうふうなお考えがあるでしょうかね。

○議長 磯永優二君

総合政策課長、答弁。

○総合政策課長 藤井郁君

そういった加入というところと併せて、いま市民病院等、当然、吉富の町民の方も利用しておりますので、負担を求めるべきではないかというふうな、当然御意見も出ております。

そういうところも含めて、いま中津市長さんはじめ、中津市のほうから働き掛け、要請・相談をしているという状況かと理解をしておりますし、今後も継続してこのような働き掛けをされていくであろうと認識をしております。

○議長 磯永優二君

古川議員。

○10番 古川哲也君

最後にですね、やっぱりもうこの定住圏ができて8年ですよ。8年間も経って、参加しないにしても、それなりの責任を負うていただくのが、私は公平・公正な立場から見たら、そういうふうな考えだと思います。

最後に市長にこのことを、要するに入っていたくことを前提ですが、もし入っていただけなかったときに、そういうふうな金銭が発生するとか、やっぱ公正・公平から見て、お互い力を合わせて事業を行っているんですから、自分たちの利便性だけ求めて責任を果たさないというのは、私はいかがなものかなと思いますので、市長の考えをお聞きいたします。

○議長 磯永優二君

市長、答弁。

○市長 後藤元秀君

御質問の定住自立圏の問題につきましては、地域で共有する課題について、中心市を中心に解決を図っていこうというところがございます。そういう意味では、やはり地理的にその環境にあるという所には、ぜひ参加をしていただきたいと、そういうふうに思っております。

○議長 磯永優二君

他にありませんか。

郡司掛議員。

○4番 郡司掛八千代君

ごみ処理用のパンフレットについてですが。

○議長 磯永優二君

どなたの関連質問ですか。

○4番 郡司掛八千代君

これは平田議員だったと思います。いえ、内丸議員です。すみません。

吉富町の職員が作成したパンフレットが、先日テレビでも取り上げられたんですが、豊前市でも現場職員と市職員が考えて作成したほうが、PRができるんじゃないかと思えます。

それで、この前も私は行って見たんですが、全然変わってないんですよ。あれを小学生

の子どもがいま見学に来ているんですが、あれ見たときに、えー、これ市長が今かわっているのに、現場の方も、もうかわっているのにちょっと違うんじゃない、というのを思っていると思うんですよ、意識を。

だからそれを、今できないのであれば、シールを貼るなりで、何らかのかたちで、早急に、私は、ちょっとしていただいたほうがよろしいのではないかと思います。

○議長 磯永優二君

郡司掛議員さん、1市2町清掃施設組合は、1市2町から選任された議員さんで、議会で構成されております。ここは豊前市の市議会です。

いま言いたいことは十分分りましたので、今度の1市2町清掃施設組合の議会で、我々は選出されておりますので、事務方にしっかり意思統一をしたパンフレットを作れということでしょうから、その旨を伝えます。そういうことでようございませうか。

○4番 郡司掛八千代君

豊前市からの議員からの一応進言ということで、よろしく願いいたします。

○議長 磯永優二君

他にありませんか。

(「なし」の声あり)

以上で、一般質問に対する関連質問を終わります。

本日の日程は、これで全て終了いたしました。

皆さんお疲れでした。

散会 14時36分